

全国陸海軍墓地一覧

Report on Investigation and Research Activity

山辺昌彦

この「全国陸海軍墓地一覧」は1945年の日本の敗戦による陸海軍の解体により、旧陸海軍軍用地を処分する時点で、陸海軍墓地として扱われたものを対象として、現在の様子を中心に調査結果をまとめたものである。したがって旧植民地などにあった陸海軍墓地は除いている。ただし捕足として、1962年の「旧陸海軍墓地現況表」に陸軍墓地としてあげられている柏と国府台についても調査結果を記載した。

個別の陸海軍墓地の参考文献はそれぞれの所に挙げたが、全体としては、1「旧陸軍墓地調査表」(大阪靖国霊場維持会資料, 1946年5月作成), 2「旧陸海軍墓地調査」(1946年6月29日付, 大蔵, 内務両次官通牒「旧軍用墓地の処理に関する件」所収, 京都府庁文書「施設主要通牒綴」(昭和26~53)のうち, 京都府立総合資料館所蔵), 3 旧陸海軍墓地現況表(厚生省が各府県よりの報告を整理したもの, 1962年11月1日, 靖国偕行文庫所蔵), 4「各地陸軍墓地の現況」(修正版, 2000年10月4日各地偕行会会長会同資料, 靖国偕行文庫所蔵), 5「陸軍墓地現況表」(1995年11月1日調, 2000年6月調補備, 靖国偕行文庫作成・所蔵, 3, 4などの資料から作成したもの)によった。しかし, 1は陸軍墓地のみであり, 函館台町, 習志野, 下志津, 佐倉, 音羽, 八日市, 信太山, 奈良, 和歌山, 戸坂山, 初瀬ヶ原, 普通寺, 高坊の陸軍墓地は載っていない。2には, 下志津, 信太山の陸軍墓地は載っていない。3には, 八日市・高槻・信太山・和歌山・戸坂山・御幸村(ロシア人墓地)・高坊の陸軍墓地が載っていないで, 代わりに柏・国府台が入っている。4, 5も陸軍墓地のみであり, やはり載っていない陸軍墓地がある。

なお, 調査およびまとめに際して, 原田敬一氏の『国民軍の神話』(2001年9月1日, 吉川弘文館)をはじめとする, 多くの著作を参考にさせていただき, また多くのご教示をいただいた。厚く感謝したい。その他, 藤井忠俊, 新井勝紘, 今井昭彦, 小田嶋恭二, 佐藤憲一, 松本博行, 本康宏史, 横山篤夫, 小野英夫, 木村薫, 久保山法子, 白石光, 林恒子, 平岡満子, 増本嘉浩, 森下徹, 山本興治, 吉川由紀の諸氏にご教示いただき, また, 京都府立総合資料館, 千葉県文書館, 大阪市公文書館, 国立国会図書館, 東京都立中央図書館, 京都府立図書館, 大阪府立中央図書館, 青森市立図書館, 弘前市立図書館, 京都市立中央図書館, 大阪市立中央図書館, 広島市立中央図書館, 浜田市立図書館, 大阪靖国霊場維持会, 神奈川平和祈念会館, 昭和館, 靖国偕行文庫, 立命館大学国際平和ミュージアム, 立命館大学図書館, 早稲田大学中央図書館などの文書館・博物館・図書館の所蔵文献資料を利用した。同じく感謝したい。

文中の株式会社ゼンリン発行の住宅地図については, 文末に一括して出典を掲げた。

〔陸軍墓地〕

1 旭川陸軍墓地

元もとは旭川市近文

敗戦直後 4111 坪

道央自動車道旭川鷹栖インターチェンジ付近と思われるが、痕跡を見つけられない

遺骨は慰霊堂に

納骨堂

旭川市花咲町 2 丁目 近文公園内に旭川仏教会が管理している全北海道戦没者慰霊堂がある

旭川部隊約 2000 人分

祭祀

1962 年現在 旭川仏教会主催で 9 月に

2000 年現在 運営委員会が慰霊団体で 6 月 5 日に

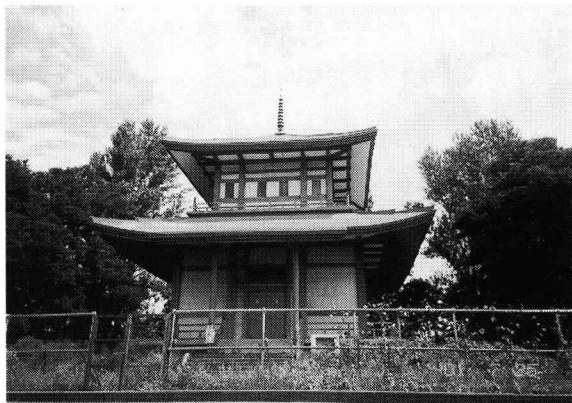
第 7 師団の陸軍墓地

参考文献

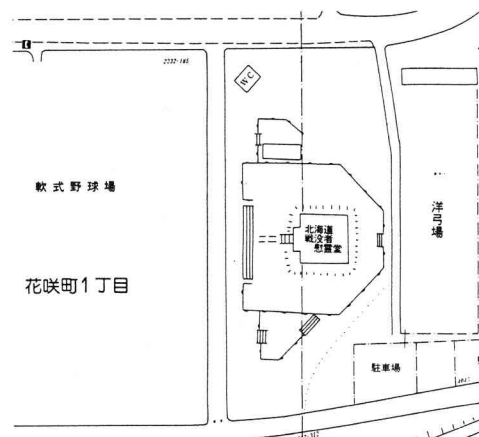
『歩兵第二十七連隊史』1933 年 4 月 5 日，帝国在郷軍人会本部

「旭川市全図」1929 年 5 月 5 日，旭川市役所編・刊

「住宅地図」に北海道戦没者慰霊堂の記載



1 旭川 全北海道戦没者慰霊堂
2001 年 7 月 25 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

2 札幌陸軍墓地

札幌市豊平区月寒西 2 条 7 丁目 平和公園

1896 年の第 7 師団設立直後に，ここに第 7 師団の陸軍墓地がつくられる

敗戦直後 6787 坪 旧陸海軍墓地調

9109 坪 旧陸軍墓地調査表

国有地で札幌市が借受

忠魂納骨塔

1934 年 2 月 3 日 歩兵第 25 連隊が建てる 4 月 27 日除幕式 1000 人あまりの骨

いまは忠霊塔と呼んでいるが，そうとは書かれていない

月寒忠霊塔奉賛会が維持管理

祭祀

1962 年現在 団体主催で 9 月中旬に

2000年現在 月寒忠霊塔奉賛会が慰霊団体で9月17日に

個人墓なし

1961年の公園整備の時に整理

2列20基あった

墓碑は埋め、遺骨は納骨塔に納める

1961年8月13日に墓碑を埋めた上に仏石塚を建てる 塚の由来は月寒忠霊塔奉賛会が書いた

参考文献

高橋憲一『札幌歩兵第二十五連隊誌』1993年7月1日刊

笠原一二「陸軍墓地の全容わかる」

『つきさつぶ郷土資料館だより』15号, 1998年7月15日刊, 所収

月寒忠霊塔奉賛会「月寒忠霊塔」リーフレット 2001年8月15日

『角川日本地名大辞典』北海道 下巻, 1987年10月8日, 角川書店刊

「住宅地図」に月寒忠霊塔の記載



2 札幌陸軍墓地 2001年7月24日撮影



3 函館 柏野陸軍墓地

敗戦直後 500坪

函館市広野町6番の陸上自衛隊函館駐屯地付近の学校用地に 痕跡みられない

4 函館 台町陸軍墓地

函館市船見町25番

旧台町 現在は船見町に合併

敗戦直後 100坪

国有地 函館市が管理

祭祀

1962年現在 団体主催で年1回, 維持管理も団体

2000年現在 遺族会が慰霊団体で7月7日に

個人墓 38基

うち下士2基 生兵もある

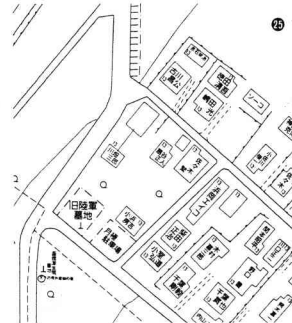
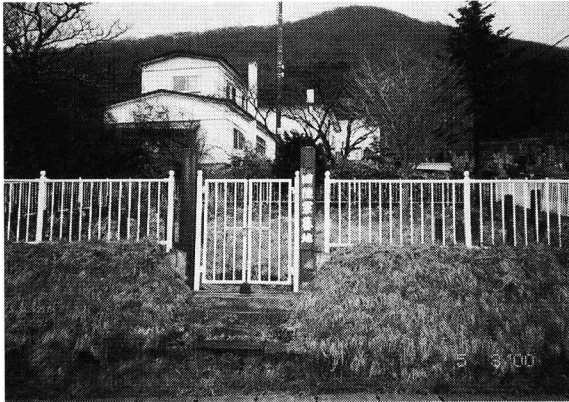
1885年ぐらいまで

参考文献

「改正 函館港全図」1899 年刊

『角川日本地名大辞典』北海道 下巻, 1987 年 10 月 8 日, 角川書店刊

「住宅地図」に旧陸軍墓地の記載



© ZENRIN CO., LTD 2002

4 函館 台町陸軍墓地 2000 年 5 月 3 日撮影

5 弘前陸軍墓地

弘前市西茂森 1 丁目 23 番 長勝寺境内

もとは原ヶ丘にあった 原ヶ丘墓地

敗戦直後 3300 坪

弘前大学附属千年農場に

遺骨は仏舍利塔に

忠霊塔

1939 年 弘前忠霊塔建設を決定 1941 年着工 敗戦までにできない 1945 年暮れに完成

忠霊塔と名乗れないので、霊塔の文字にし、梵字を付け仏舍利塔に

長勝寺が管理

5801 人分

祭祀

1962 年現在 団体主催で彼岸・盆の年 3 回, 維持管理も団体, 仏舍利塔奉賛会が所有

2000 年現在 慰霊団体なし, 慰霊祭なし

墓石は長勝寺墓地へ持ってきて放置

1978 年整備 小区画に日露戦争合葬墓 4 基と個人墓 6 基と破片がある 個人墓の内 1 基はロシア人

明治三十七八年戦役陣没 陸軍軍人合葬之墓 将校 1906 年 10 月建 大

明治三十七八年戦役陣没 陸軍軍人合葬之墓 準士官 1906 年 10 月建 中

明治三十七八年戦役陣没 陸軍軍人合葬之墓 下士 1906 年 10 月建 小

明治三十七八年戦役陣没 陸軍軍人合葬之墓 兵卒 1906 年 10 月建 小

第 8 師団の陸軍墓地

参考文献

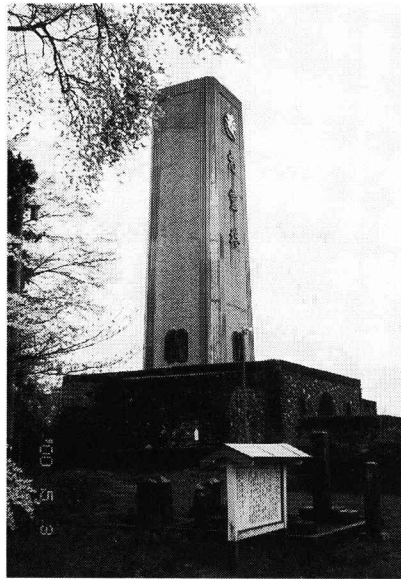
『新編 弘前市史』資料編 4, 1997 年 8 月 31 日刊 埋葬地略図も収録

『弘前大学五十年史』通史編, 1999 年 12 月 20 日刊

我満四五吉『つわものの跡探訪』

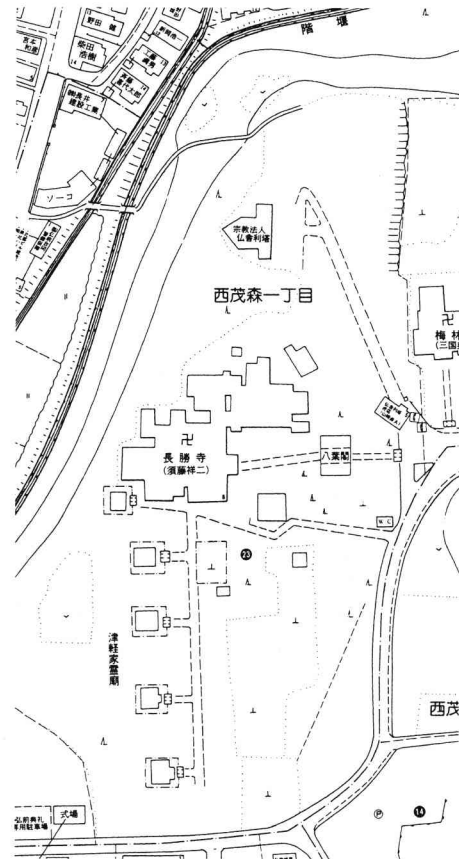
『角川日本地名大辞典』青森県, 1985 年 12 月 8 日, 角川書店刊

「住宅地図」に仏舍利塔の記載



5 弘前 仏舎利塔
2000年5月3日撮影

© ZENRIN CO., LTD 2001



6 青森 幸畑陸軍墓地

青森市幸畑 阿部野 163 番地

敗戦直後 4270 坪

市有地になり，維持管理も青森市

一般墓地

合葬墓

明治三十七八年戦役陣没 陸軍軍人合葬之墓 将校 1906年10月建 大

明治三十七八年戦役陣没 陸軍軍人合葬之墓 準士官 1906年10月建 中

明治三十七八年戦役陣没 陸軍軍人合葬之墓 下士 1906年10月建 小

明治三十七八年戦役陣没 陸軍軍人合葬之墓 兵卒 1906年10月建 小

殉国英霊之塔 1960 年 11 月 3 日建 忠霊塔に近い形

個人墓 96 基か 95 基

佐官 1 基 尉官 5 基 下士 4 基 兵卒 86 基か 85 基

祭祀

1962 年現在 団体主催で

2000 年現在 慰霊団体なし，慰霊祭なし

歩兵第 5 連隊の陸軍墓地

八甲田山遭難者の墓地

個人墓 199 基

佐官 1基 尉官 9基
兵卒 94+95基

祭祀

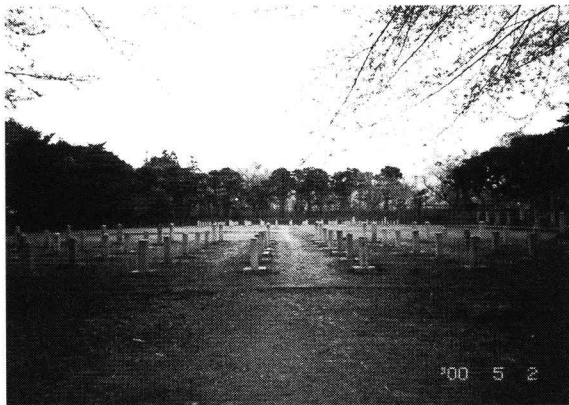
2000年現在 史跡保存会が慰霊団体 1998年1月23日慰霊祭開催

参考文献

『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』青森県、1985年12月8日、角川書店刊

「住宅地図」に幸畑陸軍墓地の記載



6 青森 幸畑陸軍墓地
2000年5月2日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

7 盛岡陸軍墓地

もとは滝沢村

敗戦直後 1607坪 旧陸海軍墓地調 滝沢村

1528坪 旧陸軍墓地調査表 盛岡市上田

公有地に

遺骨は護国神社の平和塔奉安殿に

現在は、滝沢村大字滝沢字穴口公葬地に

盛岡市八幡町13番2号 護国神社内に納骨堂（平和塔奉安殿）がある

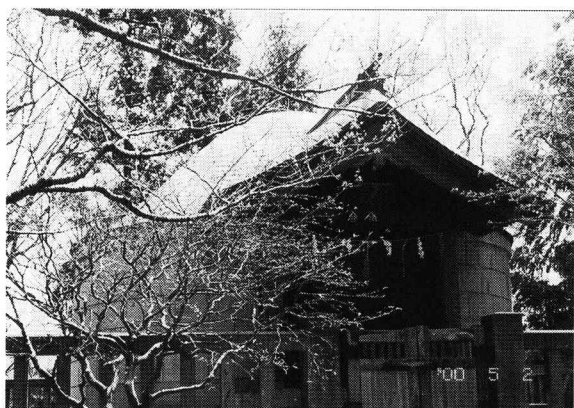
岩手県の全戦没者の合葬墓碑

維持管理は護国神社

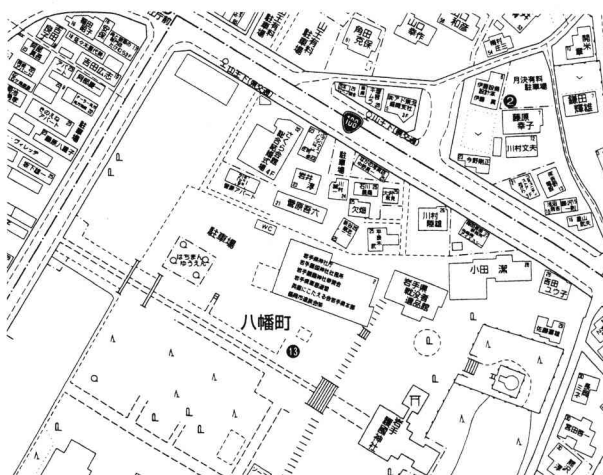
祭祀

1962年現在 団体主催で、維持管理も団体

2000年現在 慰霊団体は県遺族連合会、慰霊祭は9月中旬



7 盛岡 平和塔奉安殿 2000年5月2日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

8 仙台陸軍墓地

仙台市青葉区小松島2丁目5番1号 常盤台霊苑

1871年11月鎮台設置後、向山鹿落に設置

1876年に現在地にも設置

1892年7月鹿落の陸軍墓地廃止、現在地に改葬

日露戦争後、拡張し現在の広さに

敗戦直後 3169坪

戦後、宮城県に貸付

1953年11月10日 県に譲渡 県有墓地に 管理も県

現在 11570.24㎡

納骨堂

1940年建

合葬墓

陸軍軍人合葬之墓	将校	2人	1892年7月17日建
陸軍軍人合葬之墓	下士	19人	1892年7月17日建
陸軍軍人合葬之墓	兵卒	72人	1892年7月17日建
陸軍軍属合葬之墓	軍夫	57人 職工1人	1900年7月20日建
明治三十七八年戦役戦死病没者合葬之墓			1907年3月10日建
満州事変戦没勇士合葬之墓			1933年2月建
二十七八年役騎兵第二大隊清国戦没者合葬之墓	28人		1898年4月27日建
大東亜戦争戦没勇士合葬之墓			1953年10月建

個人墓 多数よく残る

将校 9基

下士 12基

兵卒 320基

軍夫 29基

ロシア 1基

祭祀

1962年現在 宮城県主催で、年1回、維持管理も県

2000 年現在 慰霊団体は県遺族連合会，慰霊祭は 9 月中旬

第 2 師団の陸軍墓地

参考文献

『宮城県史』7 巻，1960 年 12 月 31 日刊

原田敬一「『万骨枯る』空間の形成」『仏教大学文学部論集』82 号，1998 年 3 月 2 日刊，所収「住宅地図」に常盤台霊園の記載



8 仙台陸軍墓地 2001 年 10 月 21 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

9 秋田陸軍墓地

秋田市泉 平和公園

敗戦直後 1623 坪

墓地公園 平和塔が建つ

陸軍墓地・軍人墓・戦没者とは関係づけられていないが旧陸軍墓地の位置にあたる

秋田市管理

祭祀

2000 年現在 慰霊団体は平和公園墓地自治会，慰霊祭は秋の彼岸

秋田市泉三嶽根10-1 天徳寺境内に墓を移す

清浄観

寺の所有地で，管理も寺

個人墓 72 基

合葬墓 5 基

祭祀

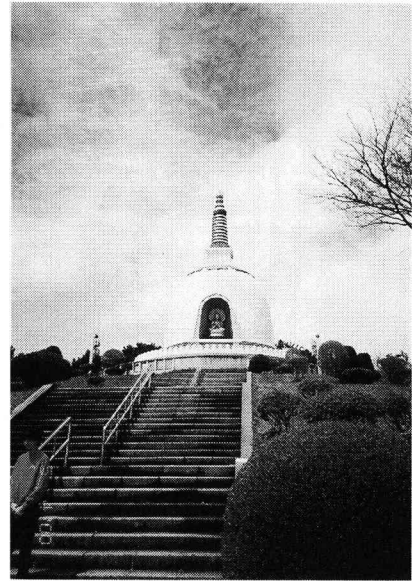
1962 年現在 天徳寺主催で，8 月上旬に

歩兵第 17 連隊の陸軍墓地

参考文献

「新撰 秋田市全図」1914 年 9 月 15 日，成見清兵衛刊

9 秋田陸軍墓地跡
2000年5月4日撮影



10 山形陸軍墓地

山形市あこや町1丁目13番29号 千歳山霊苑

1896年設置

1945年10月 大蔵省移管

敗戦直後 1536坪

1953年 山形県へ無償譲与 維持管理も県

1959年 千歳山霊苑と改称

祭祀

1962年現在 山形県主催で、4月下旬

2000年現在 山形県主催で、4月下旬

合葬墓

日露戦争の陣没陸軍軍人合葬之墓4基

兵卒・下士・準士官・将校 1906年11月6日建

満州事变戦没勇士之霊 1932年12月建

納骨堂

靖霊塔

1959年3月21日建

山形県の全戦没者の合葬墓碑 32665人分

約6000人の納骨 太平洋戦争

200人の分骨 日露戦争

個人墓

兵士 1基

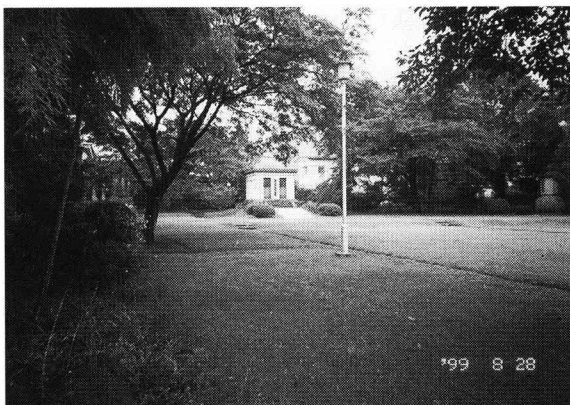
歩兵第32連隊の陸軍墓地

参考文献

『山形の慰霊碑』1995年8月15日、山形県遺族会刊

『角川日本地名大辞典』山形県、1981年12月8日、角川書店刊

「住宅地図」に千歳山霊苑の記載



10 山形陸軍墓地 1999年8月28日撮影



11 会津若松陸軍墓地

会津若松市花見ヶ丘1丁目9番 小田山忠霊堂

敗戦直後 1500坪

国有地で福島県が借受

祭祀

1962年現在 団体主催で、年1回秋に、維持管理も団体

2000年現在 慰霊団体は遺族会、慰霊祭は9月頃、管理は会津若松市

納骨堂

忠霊堂

福島県的全戦没者の合葬墓碑

1万数千人の分骨など 日清戦争から太平洋戦争まで

碑

忠魂碑 1895年8月建

日露戦役戦病没将士合祀之碑

個人墓なし

若松歩兵65連隊と和蒲池歩兵29連隊の陸軍墓地

参考文献

『若松連隊回想録』1967年7月1日、若松連隊記念事業実行委員会刊

『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

「住宅地図」に小田山忠霊堂の記載



11 会津若松陸軍墓地

1999年8月29日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

12 水戸陸軍墓地

水戸市堀町 2085 番地 水戸市堀町公園墓地

敗戦直後 1936 坪

6.6 アールだった

市有地

祭祀

1962 年現在 団体主催で、11 月に、維持管理も団体
満州事変期の個人墓

墓地の隅に密集している

上が尖っていない 新しい 階級差で大きさが異なる

将校 佐官 2 基

将校 尉官 3 基

下士 22 基

兵 69 基

納骨堂

戦没者留魂の処

陸軍墓地にあった満州事変の記念碑の基部を半地下室として納骨室をつくったもの

1950 年 11 月 15 日建

この時個人墓も整理移転

茨城県遺族連合会管理

1984 年 6 月に碑も護国神社に移転

顕勲の塔

水戸市見川 1 丁目 2 番 1 号の護国神社となり

1963 年 3 月建

戦没者留魂の処の分骨をここに移す

7700 余人 日中戦争以来

茨城県遺族連合会管理

祭祀

2000 年現在 慰霊団体は県連合遺族会、慰霊祭は 11 月 2 日

参考文献

『茨城県終戦処理史』1972 年 2 月 28 日、茨城県刊

海老根功『忠霊塔』2 巻、1985 年 2 月 25 日、東宜出版刊

「水戸市平面図」1934 年 7 月 1 日刊、都市計画茨城地方委員会編

「住宅地図」に水戸市堀町公園墓地の記載

12 水戸陸軍墓地

1999 年 8 月 30 日撮影



13 宇都宮陸軍墓地

宇都宮市鶴田町 東妙寺墓地

敗戦直後 4127 坪

元もとの所は寺院などの墓地になり痕跡なし

遺骨は護国神社の栃木県忠霊塔に

納骨堂

宇都宮市陽西町 1 番

護国神社境内にある 名前は忠霊塔

そのそばに個人墓が倒れて置かれている

管理は護国神社

栃木県の全戦没者の合葬墓碑

42520 人分

祭祀

1962 年現在 団体主催で、年 1 回

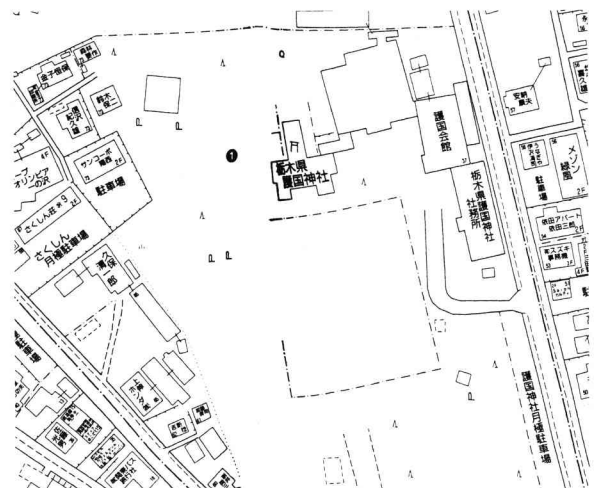
2000 年現在 慰霊団体は県遺族連合会、慰霊祭は 8 月

参考文献

『宇都宮市史』近・現代編 2, 1981 年 12 月 15 日刊 略図あり



13 宇都宮 忠霊塔 1999 年 9 月 20 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

14 高崎陸軍墓地

竜広寺に隣接してあった

戦前 宇都宮師管区司令部の所管 高崎衛戍地所在部隊が維持にあたる

毎年 3 月 10 日に供養参拝

戦後 大蔵省に移管

敗戦直後 951 坪

3138.3㎡

個人墓 256 基 合葬碑 3 基だった

維持管理と祭祀は殉公霊場維持会

竜広寺に払い下げ

申請は 1952 年 1 月 26 日

その後整備

高崎市若松町49番地 竜広寺墓地

維持管理は竜広寺

祭祀

1962年現在 竜広寺主催で、年1回

2000年現在 慰霊団体は群馬県バラオ会、慰霊祭は4月

碑

明治二十七八年戦役明治三十七八年戦役戦死病没者之碑 1906年7月27日建

満州事变忠霊之碑 1933年2月建

支那事变大東亜戦争忠霊碑 1945年8月8日建

バラオ諸島戦没者納骨供養塔 1973年4月15日建

個人墓

兵卒 約120基

下士 17基

将校 12基

1875～1936年ぐらい

ロシア人の墓も3基ある

参考文献

『歩兵第十五連隊史』1985年8月31日、歩兵第十五連隊史刊行会刊

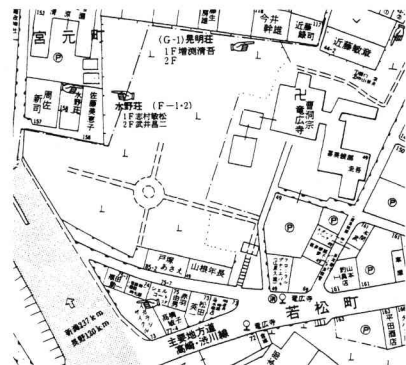
『群馬県復員援護史』1974年3月30日、群馬県刊

『角川日本地名大辞典』群馬県、1988年7月8日、角川書店刊

菊池実『元ロシア人兵士の墓』と陸海軍墓地』、『しらべる戦争遺跡の事典』2002年6月10日、柏書房刊



14 高崎陸軍墓地 1999年9月27日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

15 千葉陸軍墓地

千葉市中央区弁天3丁目16番1号

敗戦直後 1396坪

2町歩

国有地

忠霊塔

戦中から建て始めて 1954年4月15日完成

千葉県が管理

分骨 1066 人

うち氏名判明 928 人

氏名不詳 138 人

祭祀

1962 年現在 千葉県主催で、年 1 回

2000 年現在 千葉県主催で、慰霊祭は 8 月 15 日

碑

千葉陸軍合同碑

海軍の碑

個人墓なし

参考文献

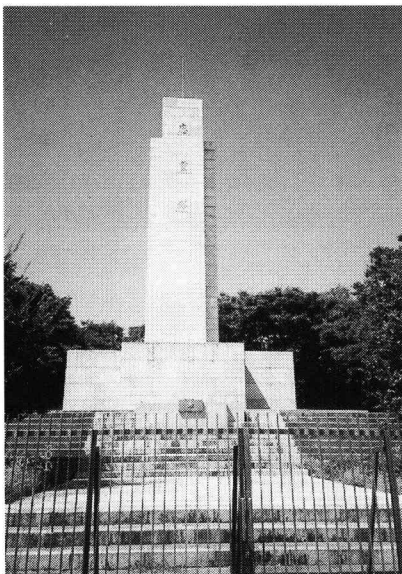
千葉県「旧陸海軍土地建物の処理状況調査報告」1947 年 7 月 20 日作成

『千葉県の忠魂碑』1998 年 4 月 10 日、海老根功編、千葉県護国神社刊

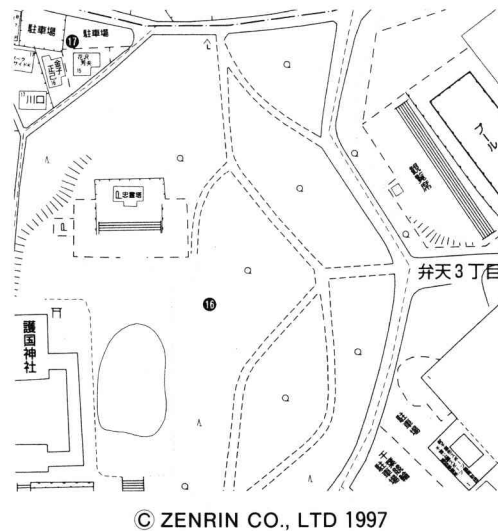
「千葉市新地図」1937 年 10 月 10 日刊、菅沼雄吉郎編

『角川日本地名大辞典』千葉県、1984 年 3 月 8 日、角川書店刊

「住宅地図」に忠霊塔の記載



15 千葉陸軍墓地 1999 年 8 月 1 日撮影



16 習志野陸軍墓地

船橋市習志野 2 丁目 5 番 習志野霊園

敗戦直後 1564 坪

0.5 町歩

船橋市へ移管

1971 年 4 月に整備

三国軍人墓地 と呼んでいる

霊園奥の方の一角にある

祭祀

2000 年現在 慰霊団体なし、慰霊祭なし

碑

日本人 ソ連人 ドイツ人 それぞれ1基ずつの記念碑

日本軍人戦没者慰霊之碑

ソ連軍人戦没者慰霊之碑

個人墓

日本人 59基

兵卒 39基 内2基は小さい

下士 17基

特務曹長 1基

技手 1基

少尉 1基

日露戦争が多い 1896年や1908年の死もある

ロシア人 日露戦争

ドイツ人 第一次大戦

騎兵の陸軍墓地

参考文献

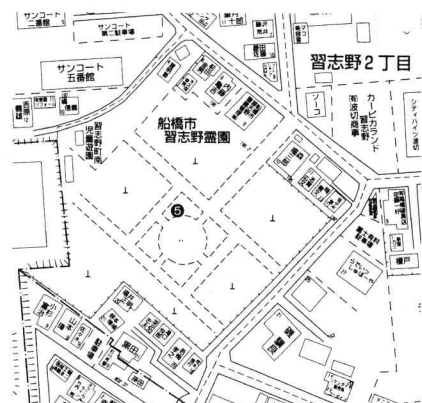
千葉県「旧陸海軍土地建物の処理状況調査報告」1947年7月20日作成

『角川日本地名大辞典』千葉県, 1984年3月8日, 角川書店刊

「住宅地図」に船橋市習志野霊園の記載



16 習志野陸軍墓地 2000年8月24日撮影



© ZENRIN CO., LTD 1995

17 佐倉陸軍墓地

佐倉市海隣寺町 佐倉霊園 市営墓地

敗戦直後 1763坪

佐倉忠霊塔

市有

祭祀

1962年現在 佐倉市主催で, 年1回, 管理は佐倉市

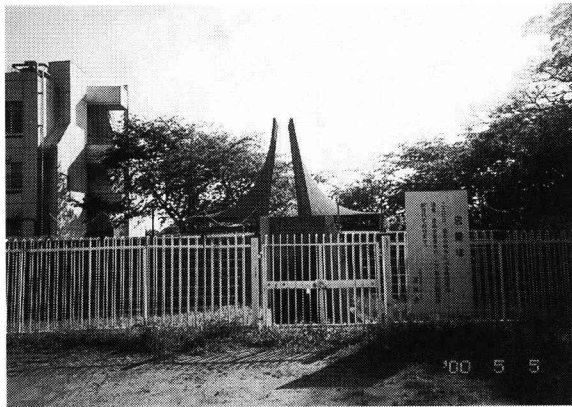
2000年現在 佐倉市主催で, 慰霊祭は11月中旬, 管理は遺族会

参考文献

千葉県「旧陸海軍土地建物の処理状況調査報告」1947年7月20日作成

『千葉県の忠魂碑』1998年4月10日, 海老根功編, 千葉県護国神社刊

「住宅地図」に佐倉霊園の記載



17 佐倉陸軍墓地 2000年5月5日撮影



© ZENRIN CO., LTD 1995

18 下志津陸軍墓地

四街道市栗山 半台 1074 番地 栗山半台児童遊園奥の墓地

明治 30 年代に有力者が土地を寄付 下志津陸軍埋葬地に

1000 坪

旧陸軍墓地が墓地に

公有地 維持管理は地方公共団体から半台自治会へ

13 人は引き取り手なかった 土葬

戦前 1 人 戦後 4 人 引き取られる

祭祀

2000 年現在 慰霊団体なし、慰霊祭なし

個人墓 8 基

墓地の奥の真中の一角に残る

中尉 1 人 上等兵 1 人 1 等兵 2 人 2 等兵 4 人

1901 年から 1923 年の死

無縁のもののみ残る 他は引き取られる

野戦重砲兵の陸軍墓地

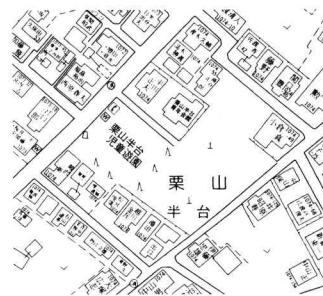
参考文献

千葉県「旧陸海軍土地建物の処理状況調査報告」1947 年 7 月 20 日作成

『角川日本地名大辞典』千葉県, 1984 年 3 月 8 日. 角川書店刊



18 下志津陸軍墓地 2000年8月24日撮影



© ZENRIN CO., LTD 1992

19 音羽陸軍墓地

文京区大塚5丁目40番1号 護国寺墓地内

個人墓が2400基あった

敗戦直後 4237坪

護国寺へ払下

維持管理 護国寺

祭祀

1962年現在 護国寺主催で、11月に

2000年現在 慰霊団体は遺族会で、慰霊祭は11月11日

陸軍軍人合葬之墓

明治三十七八年戦役死没将校以下遺骨 1906年8月建

陸軍軍人合葬之墓

満州事変死没将校以下 1932年12月建

1957年英霊塔を建て 改葬

2427人分

有縁墓碑40基を残す

都県の全戦没者納骨所

埼玉県はなしで、交付不能遺骨は「世界無名戦士墓」へ

東京都は東京都戦没者霊苑

文京区春日1丁目14番4号 東京市忠霊塔建設予定地跡

1960年東京都が建設

1988年全面改修

維持管理 東京都

祭祀

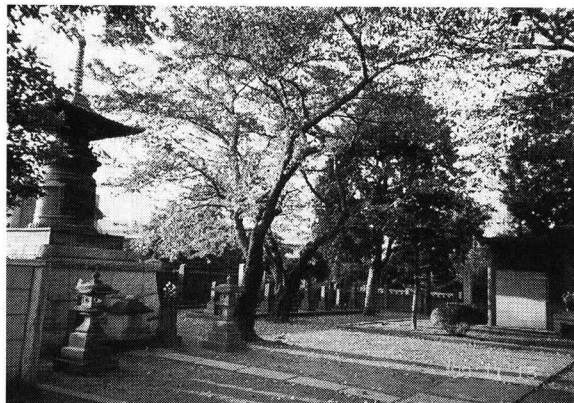
1962年現在 団体主催で、年2回春秋

参考文献

原田敬一「『万骨枯る』空間の形成」『仏教大学文学部論集』82号、1998年3月2日刊、所収

『東京都忠魂碑等建立調査集』1995年8月15日、海老根功編、靖国神社刊

19 音羽陸軍墓地 1998年11月15日撮影



20 横須賀 平作陸軍墓地

横須賀市平作7丁目5

敗戦直後 1374坪

1951年4月1日 横須賀市に移管

1964 年 10 月 改葬

1973 年 3 月 戦没者招魂碑建てる

横須賀市営

約 400 人

内 第一次世界大戦 23 人

祭祀

1962 年現在 横須賀市主催で、年 2 回春秋

2000 年現在 慰霊団体は衣笠仏教会で、慰霊祭は 5 月 10 月の第 3 土曜日

個人墓 23 基

兵 20 基

下士 2 基

特務曹長 1 基

横須賀重砲兵連隊の墓地

神奈川県全戦没者納骨所

神奈川県戦没者慰霊堂

横浜市港南区最戸 2 丁目 19 番 1 号

1953 年 11 月 5 日、神奈川県が造営

3500 人分

維持管理 神奈川県

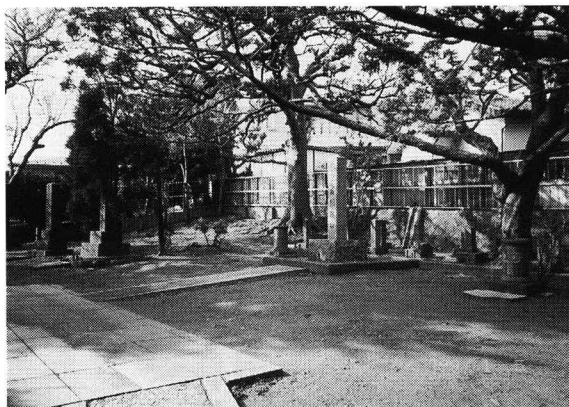
祭祀

1962 年現在 神奈川県主催で、年 1 回

参考文献

『神奈川県忠魂碑等建立調査集』1996 年 8 月 15 日、海老根功編、靖国神社刊

「住宅地図」に平作旧陸軍墓地の記載



© ZENRIN CO., LTD 2000

20 横須賀 平作陸軍墓地 1999 年 1 月 5 日撮影

21 高田陸軍墓地

上越市本城町 8 番 高田公園

元もとは 金谷村

敗戦直後 3771 坪

学校林に

遺骨は忠霊塔に

忠霊塔

移転先に 忠霊塔を建てる

名前は忠霊塔だが、実際は納骨堂

2306 人分

墓碑を基礎に入れる

中に忠魂霊あり

祭祀

1962 年現在 団体主催で、4 月と 8 月に、維持管理は高田市

2000 年現在 慰霊団体は遺族会で、慰霊祭は 4 月 16 日、管理は社会福祉協議会

1942 年 2 月建設許可

1942 年 11 月 4 日着工

1943 年 12 月落成

碑

日露戦役忠死者 忠魂碑 1906 年 3 月建 高田尚武会

西伯利出征戦死者 忠魂碑 1930 年 11 月 3 日建 高田尚武会、帝国在郷軍人会高田市連合分会

忠魂碑 1901 年 4 月 2 日建 新潟県中頸城郡高城村

忠魂碑 1928 年建 高田連隊区管内 1 市 8 郡共同

高田墓苑の記 1958 年 8 月建 高田郷友会

戦没軍馬慰霊塔 1982 年 7 月建

個人墓なし

参考文献

『新潟県終戦処理の記録』1972 年 3 月 31 日、新潟県刊

『高田市史』1914 年 5 月 23 日、高田市教育会刊

『上越市史』別編 7 兵事資料、2000 年 3 月 31 日刊

『上越市史』普及版、1991 年 10 月 1 日刊

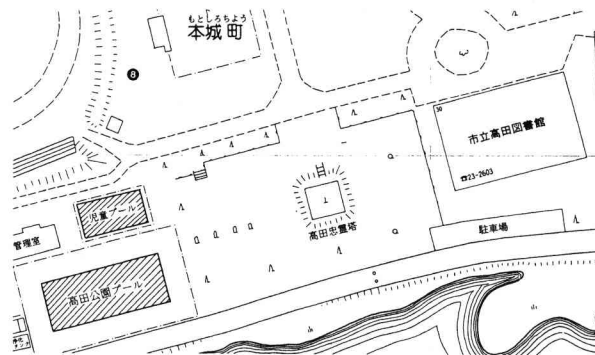
『高田歩兵第五十八連隊史』1972 年 8 月 1 日刊

旧陸軍墓地の写真

「住宅地図」に高田忠霊塔の記載



21 高田 忠霊塔 2000 年 7 月 11 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

22 新発田陸軍墓地

新発田市西園町3丁目14番 西公園

元もとは 五十公野山にあった 現在は五十公野公園に

敗戦直後 5429 坪 旧陸海軍墓地調

1000 坪 旧陸軍墓地調査表

整理済み

遺骨は納骨堂に

忠霊塔

移転先に 忠霊塔を建てる 1945 年春竣工

墓碑を基礎に入れる

名前は忠霊塔だが、実際は納骨堂

14282 人分

祭祀

1962 年現在 団体主催で、5 月と 8 月、維持管理も団体

2000 年現在 慰霊団体は招魂祭祭典委員会で、慰霊祭は 5 月 3 日、管理は新潟県

碑

日露戦役忠霊塔

西伯利出征戦病没者残骨灰埋葬之地

合同忠霊塔

戦役招魂碑 1898 年 11 月 23 日建

ガダルガナル戦記念碑

慰霊平和塔 ビルマ 1970 年 8 月 16 日建

個人墓なし

歩兵第 16 連隊の陸軍墓地

参考文献

『新潟県終戦処理の記録』1972 年 3 月 31 日、新潟県刊

『新発田連隊史』1984 年 10 月 25 日刊

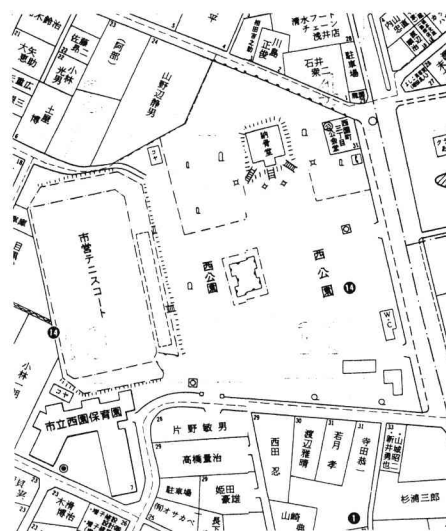
旧陸軍墓地と今の納骨堂の地図収録

『碑』1982 年 8 月 30 日、平和祈念刊行会刊

「住宅地図」に西公園・納骨堂の記載



22 新発田 忠霊塔 2000 年 7 月 10 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

23 村松陸軍墓地

村松町愛宕原 村松公園

元もとは 河内にあった

敗戦直後 1857 坪

整理済み

遺骨は忠霊塔に

忠霊塔

移転先に 忠霊塔を建てる

墓碑を基礎に入れる

名前は忠霊塔だが、実際は納骨堂 1944 年 10 月 14 日竣工

維持管理は村松町

2107 人分

祭祀

1962 年現在 団体主催で、4 月

2000 年現在 慰霊団体は村松町南部遺族会で、慰霊祭は 4 月

個人墓なし

参考文献

『新潟県終戦処理の記録』1972 年 3 月 31 日、新潟県刊

『碑』1982 年 8 月 30 日、平和祈念刊行会刊

「住宅地図」に村松公園・忠霊塔の記載



23 村松 忠霊塔 2000 年 7 月 10 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

24 富山 長岡陸軍墓地

富山市長岡新 長岡墓地の一角

1908 年から歩兵第 69 連隊の編成により設置

敗戦直後 1445 坪

1953 年 4 月 1 日 富山県へ貸与

1964 年 6 月 1 日 富山県に譲渡

県の所属、管理

全体で 28748 人

忠霊塔

1941 年 10 月建

日中戦争後の 4786 人から、以後も合葬

富山県の全戦没者合葬墓碑

祭祀

1962 年現在 富山県主催で、8 月

2000 年現在 慰霊団体は富山県遺族会で、慰霊祭は 8 月 3 日

合葬碑

上海事変陣没者合葬碑 1932 年 12 月建 148 人

満州事変陣没者合葬碑 1937 年 5 月建

1935 年 6 月～37 年 5 月 56 人

陣没者病死者合祀碑 1933 年 9 月建

1925 年 5 月 金沢から富山へ 35 連隊が転営

金沢の陸軍墓地から分骨を移す

個人墓なし

参考文献

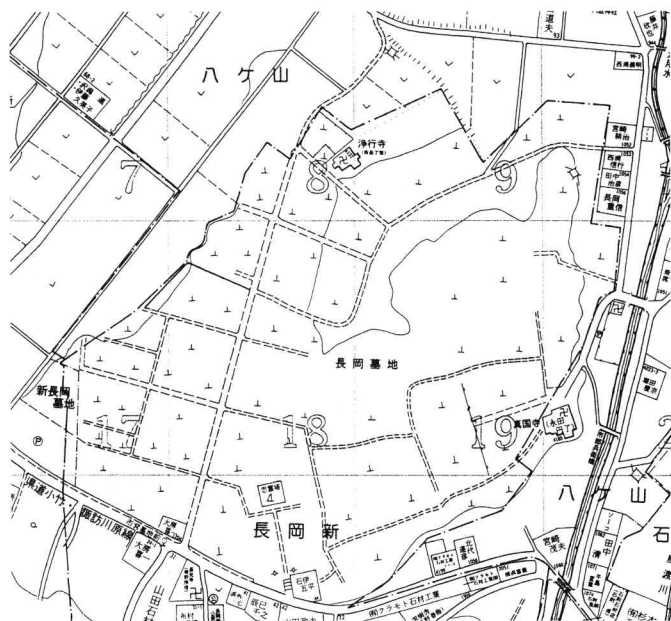
『富山連隊史』1986 年 11 月 17 日、富山連隊史刊行会刊

『富山県終戦処理史』1975 年 3 月 31 日、富山県刊

「住宅地図」に長岡墓地・忠霊塔の記載



24 富山 長岡陸軍墓地
1999 年 7 月 5 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

25 金沢陸軍墓地

金沢市野田町 石川県戦没者墓地

西南戦争の戦没者の遺骨は卯辰山の金沢市共同墓地に葬られる

1887 年ごろ形成

1893 年軍人慰霊碑ここに建てられる

敗戦直後 3832 坪 旧陸海軍墓地調

3165 坪 旧陸軍墓地調査表

12671㎡

戦後 県遺族連合会が管理

1962年から石川県管理

祭祀

1962年現在 石川県主催で、8月上旬

2000年現在 石川県主催で、慰霊祭は8月

忠霊塔

支那事变戦没者忠霊塔 1941年5月建 32838人

石川県の全戦没者合葬墓碑

合葬墓碑 7基

陸軍軍人合葬之墓 下士 1893年3月建 49人

陸軍軍人合葬之墓 兵卒 1893年3月建

北越戦争と西南戦争の戦没者の遺骨を入れる 69人

征清役戦死合葬碑 1897年4月建 72人

征清役病没合葬碑 1897年4月建 46人

上海事变陣没者合葬碑 1932年12月建 144人

満州事变陣没者合葬碑 1937年5月建 104人

日露役陣没者合葬碑 1937年5月建 6124人

1907年3月建、将校同相当官、準士官、下士及軍属、兵卒及軍属の4碑を1基に合葬

他に戦後建てられた碑あり

個人墓

兵士 368基 1877年～1905年

将校 24基 1879年～1911年

ロシア人 10基 1905年

第9師団の陸軍墓地

参考文献

本康宏史『「軍都」と民俗再考」2、『石川県立歴史博物館紀要』8号、1996年刊、所収

本康宏史『兵士の死』『近代日本の形成と日清戦争』2001年4月20日、雄山閣刊、所収

本康宏史『軍都の慰霊空間』2002年3月10日、吉川弘文館刊

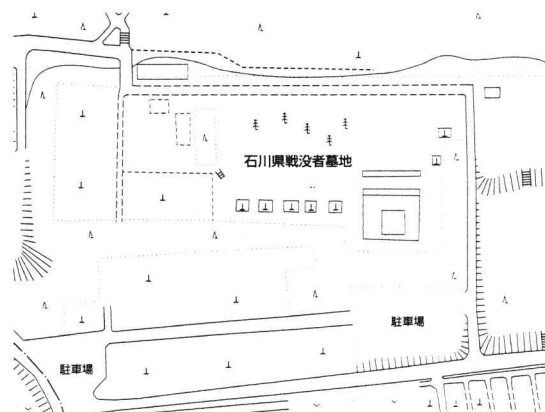
『終戦五十周年記念誌「憶う」』1996年3月31日、石川県遺族連合会刊

『石川県史』現代編1巻、1962年10月17日刊

「住宅地図」に石川県戦没者墓地の記載



25 金沢陸軍墓地 1999年7月3日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

26 鯖江陸軍墓地

鯖江市水落町1丁目8番 嶺北忠霊場 西山公園の所

1906年に丹生郡立待村牛尾経ヶ嶽に設置

1914年現在地に移転

1941年拡張整備

敗戦直後 7179坪 旧陸海軍墓地調

6140坪 旧陸軍墓地調査表

1949年3月福井県遺族連合会に移管

嶺北忠霊場に

約4900坪

祭祀

1962年現在 福井県主催で、春または秋、維持管理は団体

2000年現在 福井県主催で、慰霊祭は8月、管理は福井県

忠霊塔

支那事変陣没者忠霊塔 1941年10月建

1939年夏、建設の議おこる

合葬墓

上海事変陣没者合葬碑 1932年12月建

満州事変陣没者合葬碑 1937年5月建

明治三十七八年戦役 戦死病没将校同相当官合葬碑 1907年3月10日建

明治三十七八年戦役 戦死病没準士官合葬碑 1907年3月10日建

明治三十七八年戦役 下士並軍属合葬碑 1907年3月10日建

明治三十七八年戦役 兵卒並軍属合葬碑 1907年3月10日建

個人墓 65基 (1962年現在)

兵卒 41基

下士 5基

将校 19基

階級別

他に新しいものもあるが、それは階級を問わずに同じ大きさ

歩兵第36連隊の陸軍墓地

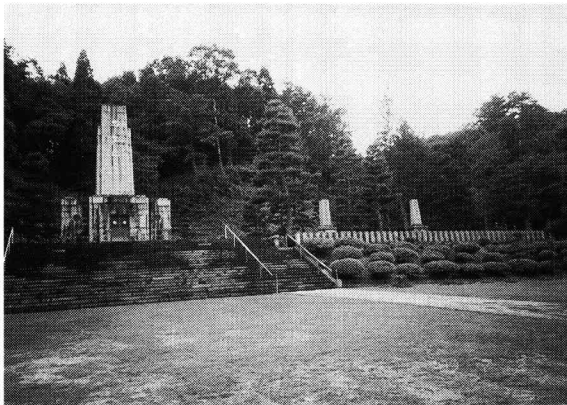
参考文献

『鯖江歩兵第三十六連隊史』1976年8月15日刊

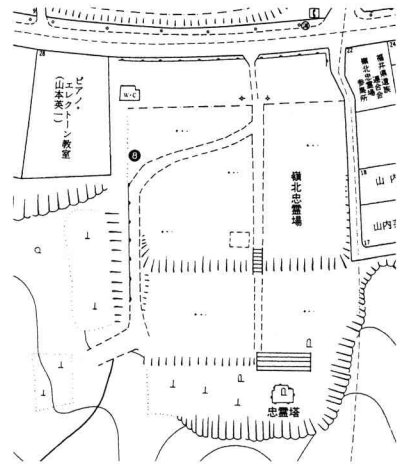
『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』福井県、1989年12月8日、角川書店刊

「住宅地図」に嶺北忠霊場・忠霊塔の記載



26 鯖江陸軍墓地 1999年7月3日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

27 敦賀陸軍墓地

敦賀市岡山町1丁目 中郷小学校隣公園

校庭が参道

敗戦直後 2324坪

祭祀

1962年現在 福井県主催で、春または秋、維持管理は団体

2000年現在 福井県主催で、慰霊祭は8月頃、管理は敦賀市

忠霊塔

支那事变戦没者忠霊塔

頂上

合葬墓

合葬碑 1941年9月建 南へ一段下がった所

明治三十七八年役戦病没将校下士兵卒墓 1906年1月建 北へ一段下がった所

石でなく銅製

2400人以上死 1765人陸軍墓地へ分骨納骨希望

上海事变陣没者合葬碑 1932年12月建 北へ一段下がった所

人名彫ってある

満州事变陣没者合葬碑 1937年5月建 北へ一段下がった所

個人墓なし

もと陸軍墓地があった所は、現在、敦賀市金山の敦賀中央自動車学校に

参考文献

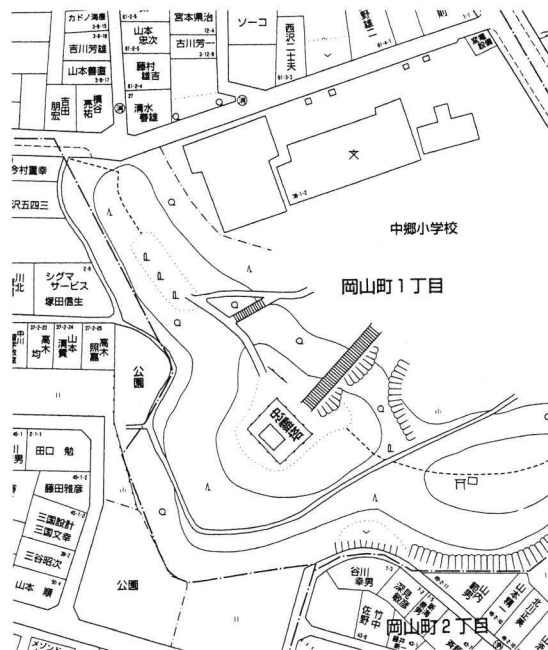
『敦賀連隊回顧録』1982年4月11日刊

『角川日本地名大辞典』福井県、1989年12月8日、角川書店刊

「住宅地図」に忠霊塔の記載



27 敦賀陸軍墓地 1999年10月4日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

28 甲府陸軍墓地

甲府市岩窪町 つつじが崎霊園

敗戦直後 1226 坪

国有地で甲府市が借受 維持管理も甲府市
祭祀

1962年現在 甲府市主催で、年3回
納骨堂

戦中に作りかけ未完成で敗戦

戦後完成

1976年4月、護国神社境内に移転

分骨 5326 人

山梨県の全戦没者納骨所

祭祀

1962年現在 団体主催で、維持管理も団体

2000年現在 山梨県主催で、慰霊祭は7月と10月、管理は護国神社

個人墓

将校の墓3基のみ残る

歩兵第49連隊の陸軍墓地

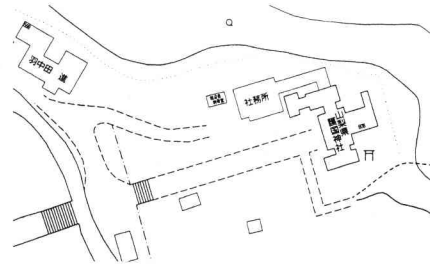
参考文献

「甲府市地図」1940年頃刊、清水国次編

「住宅地図」に戦没者納骨堂の記載



28 甲府陸軍墓地 1999年9月21日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

29 松本陸軍墓地

松本市岡田松岡 美須々公園 護国神社裏

1907年1月 50連隊兵営 松本設置決定

1908年11月3日 50連隊松本に入る

木沢上の墓地の土地も松本町が寄付

この初めの陸軍墓地があった所は、現在、松本市蟻ヶ崎4丁目8番地の松本市営霊園に
敗戦直後 2906坪 旧陸海軍墓地調

1233坪 旧陸軍墓地調査表

国有地で長野県が借受

祭祀

1962年現在 団体主催で、3月・8月・9月、維持管理は団体

納骨堂

長野県の全戦没者納骨所

祭祀

2000年現在 慰霊団体は護国神社奉賛会で、慰霊祭は8月16日、管理は松本市

碑

合葬碑

個人墓なし

歩兵第50連隊の陸軍墓地

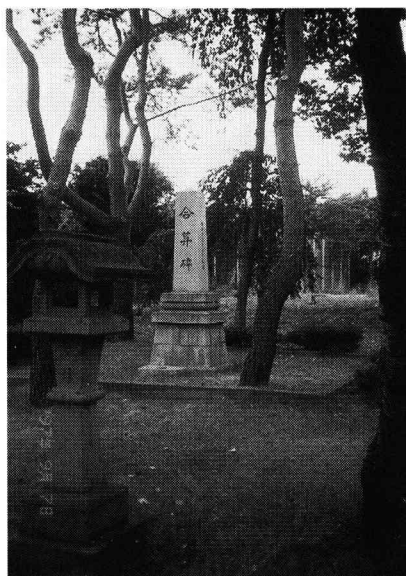
参考文献

『僕らの街にも戦争があった』1988年8月15日、長野県歴史教育者協議会編、銀河書房刊

『松本市史』下巻 1933年10月5日刊

『角川日本地名大辞典』長野県、1990年7月18日、角川書店刊

「住宅地図」に松本市美須々公園・納骨堂の記載



© ZENRIN CO., LTD 2002

29 松本陸軍墓地
1997年9月7日撮影

30 岐阜陸軍墓地

各務原市那加桐野町1丁目

敗戦直後 1493 坪

国有地 1962 年現在 有志が維持管理

祭祀

2000 年現在 岐阜県主催で、慰霊祭は 3 月、管理も岐阜県

合葬墓

満州事变戦病没者合同墓碑

戦病没者合祀之碑 1922 年 7 月建

付 納骨石室

個人墓 約 2 基

歩兵第 68 連隊の陸軍墓地

岐阜県の全戦没者合葬墓碑

岐阜県戦没者慰霊塔

岐阜市御手洗の岐阜護国神社境内

6300 人分

維持管理は神社

祭祀

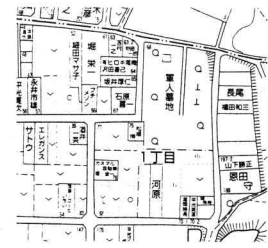
1962 年現在 岐阜県主催で、年 1 回

参考文献

「住宅地図」に軍人墓地の記載



30 岐阜陸軍墓地 1998年10月19日撮影



@CZENRIN CO., LTD
2001

31 浜松陸軍墓地

浜松市住吉1丁目11番

敗戦直後 4138坪 旧陸海軍墓地調

1483坪 旧陸軍墓地調査表

国有地で浜松市が借受

祭祀

1962年現在 仏教団体主催で、6月、維持管理も仏教団体

2000年現在 管理は浜松市で、慰霊団体なし、慰霊祭なし

忠霊殿

碑

平和祈念の碑

英霊顕彰之碑

個人墓なし

歩兵第67連隊の墓地

この連隊は1925年廃止

参考文献

『静岡県内忠魂碑等（慰霊施設）全書』1991年7月29日、二橋正彦編、静岡県護国神社刊

『角川日本地名大辞典』静岡県、1982年10月8日、角川書店刊

「住宅地図」に住吉公園の記載



31 浜松陸軍墓地 1998年12月29日撮影



©ZENRIN CO., LTD 2002

32 静岡陸軍墓地

静岡市沓谷2丁目7番

1897 年ごろ設置

敗戦直後 1732 坪 旧陸海軍墓地調

1385 坪 旧陸軍墓地調査表

1946 年 6 月 静岡市に無償貸付

1955 年 市が修復整備

現在 2200 坪

祭祀

1962 年現在 静岡市主催で、8 月、維持管理も静岡市

2000 年現在 慰霊団体は静魂奉賛会で、慰霊祭は 8 月 31 日、管理は静岡市

合葬碑など

明治三十七八年役 戦死病没者追悼碑

明治三十七八年戦役 戦病死将校同相当官之碑

明治三十七八年戦役 戦病死準士官之碑

明治三十七八年戦役 戦病死下士之碑

明治三十七八年戦役 戦病死兵卒之碑

大正三四年戦役 戦病死下士兵卒碑

昭和三年支那事变 陣没者之碑 1930 年 10 月建 8 人

満州事变戦病没者合葬碑 1936 年 10 月建

支那事变大東亜戦争忠霊塔 1968 年 8 月 31 日建

戦没馬犬鳩慰霊 1971 年 8 月 15 日建

個人墓

将校 42 基 日露戦争

特務曹長 4 基 日露戦争

下士 3 基 1899 年～1933 年ころ

兵卒 6 基 1898 年～1933 年ころか

ドイツ兵俘虜 1 基 1915 年

歩兵第 34 連隊の陸軍墓地

参考文献

村瀬隆彦「静岡陸軍墓地個人墓について」『考古学論文集 東海の路』2002 年 3 月刊、所収

『歩兵第三十四連隊史』1979 年 3 月 1 日、静岡連隊史編纂会編、静岡新聞社刊

『静岡県内忠魂碑等（慰霊施設）全書』1991 年 7 月 29 日、二橋正彦編、静岡県護国神社刊

「静岡市詳細図」市街地部、1938 年 10 月 1 日、山田製図社編・刊

「住宅地図」に旧静岡陸軍墓地公園の記載



32 静岡陸軍墓地 2001年10月23日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

33 三島陸軍墓地

三島市加茂川町7番

敗戦直後 1588坪 旧陸海軍墓地調

992坪 旧陸軍墓地調査表

国有地で三島市が借受，維持管理も三島市
祭祀

1962年現在 団体主催で，4月

2000年現在 三島市主催で，慰霊祭は5月中旬

碑

忠魂碑 1960年4月建

平和の碑 1980年10月建

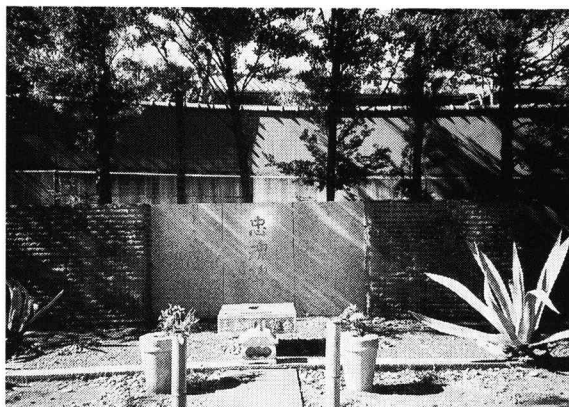
個人墓，合葬墓なし

野戦重砲兵の陸軍墓地

参考文献

『静岡県内忠魂碑等（慰霊施設）全書』1991年7月29日，二橋正彦編，静岡県護国神社刊

33 三島陸軍墓地 2000年7月29日撮影



34 名古屋陸軍墓地

千種区平和公園3丁目501

もとは東区出来町3丁目16番 新出来公園周辺 旧表示，新出来町5-33

敗戦直後 2860坪

1956 年 1 月 10 日 墓碑733基を平和公園に移転

1970 年 12 月 14 日 国より名古屋市に管理移管

約 3000㎡

祭祀

1962 年現在 維持管理は有志

2000 年現在 慰霊団体なし，慰霊祭なし

万国英霊塔

合葬墓 14 基

陸軍軍人軍属合葬之墓 1896 年 12 月建

野砲兵第二連隊，第三師団彈薬大隊 忠死者之墓

陸軍軍属合葬之墓 3 基

工兵第三大隊及特設隊陣没下士卒之墓 1896 年 3 月建

明治二十七八年戦役輜重兵第三大隊 忠死者之墓

陸軍軍人合葬之墓 2 基

西伯利出征戦病死者追悼碑 1920 年 10 月建

戦死者之墓 騎兵第三連隊

明治三十七八年戦役戦死病没者追悼碑

明治三十七八年戦役戦病死下士之碑

明治三十七八年戦役戦病死兵卒之碑

個人墓 1962 年現在 714 基

将校 約 60 基

兵卒 約 530 基

下士 約 80 基

ドイツ人 12 基

ロシア人 15 基

第 3 師団の陸軍墓地

参考文献

『歩兵第六連隊歴史』1968 年 4 月 7 日刊

原田敬一「『万骨枯る』空間の形成」『仏教大学文学部論集』82 号，1998 年 3 月 2 日刊，所収

『愛知の戦争遺跡ガイド』1997 年 7 月15日，あいち・平和のための戦争展実行委員会編・刊

『愛知県下英霊社忠魂碑等調査報告書』第 1 集，1992 年 10 月 25 日，愛知県護国神社編・刊

「名古屋市実測図」1910 年 3 月刊

「隣接町村併合記念 名古屋市全図」1921 年 10 月刊

「大名古屋全図」1937 年 7 月刊



34 名古屋陸軍墓地 1998 年 3 月 23 日撮影

35 豊橋陸軍墓地

豊橋市東田字西前山1-1 桜ヶ丘公園

もとは1885年に東田町字東前山（臨済山）に

敗戦直後 3481坪

1962年現在、国有地で豊橋市が借受、維持管理も豊橋市

1982年 隣接地の現在地に移転

管理は豊橋市

3903㎡

祭祀

1962年現在 団体主催で、10月

2000年現在 慰霊団体なし、慰霊祭なし

合葬墓・碑など 16基

戦死者

病死者

陸軍軍人 合葬之墓 日清戦争 戦死者 1897年9月15日建

陸軍軍人 合葬之墓 日清戦争 戦病死者 1897年9月15日建

戦病死将校同相当官之碑 日露戦争

戦病死準士官之碑 日露戦争

戦病死下士之碑 日露戦争

戦病死兵卒之碑 日露戦争

明治三十七八年役戦死病没者追悼碑

北満州忠死者之碑 1925年8月建 歩兵第18連隊の17人

満州事変戦病没者合葬碑

昭和三年支那事変 忠死者之碑

支那事変並大東亜戦争 戦病没勇士之碑 1964年10月建

平和之礎 騎兵第二十五連隊

鎮魂碑 1982年10月11日建

愛馬之碑

個人墓

将校 31基

兵卒・下士 54基

内1基は清国俘虜

参考文献

羽賀祥二「軍都の戦争記念碑」『近代日本の内と外』1999年11月1日、吉川弘文館刊、所収

『愛知の戦争遺跡ガイド』1997年7月15日、あいち・平和のための戦争展実行委員会編・刊

『愛知県下英霊社忠魂碑等調査報告書』第2集、1998年4月27日、愛知県護国神社編・刊

『わが連隊』1978年10月30日、ノーベル書房刊

『角川日本地名大辞典』愛知県、1989年3月8日、角川書店刊

「住宅地図」に陸軍墓地の記載



35 豊橋陸軍墓地 1998年8月26日撮影



36 津陸軍墓地

久居市野村町 野田池の東

敗戦直後 5054 坪 旧陸海軍墓地調

1989 坪 旧陸軍墓地調査表

国有地

祭祀

1962 年現在 団体主催で、春季、維持管理も団体

2000 年現在 管理は久居市、慰霊団体は不詳、慰霊祭なし

合葬墓

合祀碑 1934 年 3 月 7 日建

満州事変戦病没者合同墓碑 1936 年 5 月 30 日建

個人墓なし

歩兵第 33 連隊の陸軍墓地

参考文献

三重県歴史教育者協議会編『三重の戦争遺跡』1998 年 2 月 7 日、つむぎ出版刊

『終戦 50 周年 三重県遺族会記念史』1995 年 7 月 20 日、三重県遺族会刊

『わが連隊』1978 年 10 月 30 日、ノーベル書房刊

『碑』1982 年 8 月 30 日、平和祈念刊行会刊

「住宅地図」に陸軍墓地の記載



36 津陸軍墓地 1998年12月23日撮影



37 大津 山上陸軍墓地

大津市皇子が丘1丁目1番

敗戦直後 1981坪

国有地で大津市が借受，管理も大津市
祭祀

1962年現在 団体主催で，年2回

2000年現在 慰霊団体は護持奉賛会，慰霊祭は春と11月

合葬碑

明治三十七八年戦役将校同相当官戦病死者合葬 1906年11月建

明治三十七八年戦役準士官戦病死者合葬碑 1906年11月建

明治三十七八年戦役下士戦病死者合葬碑 1906年11月建

大正四乃至九年戦役戦病死者之碑 1922年6月建

戦後の碑，塔

大東亜戦争戦没者之碑 1966年9月建

日清日露第一次第二次世界大戦各戦役戦没之英霊供養塔 1980年5月10日建

個人墓

よく残る 一部改葬

大津バイパス建設時に559基のうち237基を改葬

歩兵第9連隊の陸軍墓地

参考文献

『滋賀県内忠魂碑・慰霊碑等調査集』1997年2月，滋賀県護国神社編・刊
「住宅地図」に旧大津陸軍墓地の記載



37 大津 山上陸軍墓地 1998年11月13日撮影



© ZENRIN CO. 大津，LTD
2000

38 八日市忠霊塔

八日市市建部上中町604番地

八日市陸軍墓地の関連か

敗戦直後 524坪

1946年3月建

参考文献

『滋賀県内忠魂碑・慰霊碑等調査集』1997年2月，滋賀県護国神社編・刊
「住宅地図」に忠霊塔の記載

39 京都 伏見陸軍墓地

京都市伏見区深草石峰寺山町 深草霊園

歩兵第9連隊の移動にともなって大津から移転

敗戦直後 4927 坪

市有地，管理も京都市

祭祀

1962 年現在 京都市主催で，年 2 回春秋

2000 年現在 京都市主催で，慰霊祭は 3 月と 9 月

合葬墓

日露戦争戦病死者合葬碑 4 基 1906 年建

将校・準士官・下士・兵卒の階級別

満州事变戦病没者合同墓碑 1936 年建

歩兵第九連隊将兵英霊合祀之碑 1934 年建

個人墓なし

参考文献

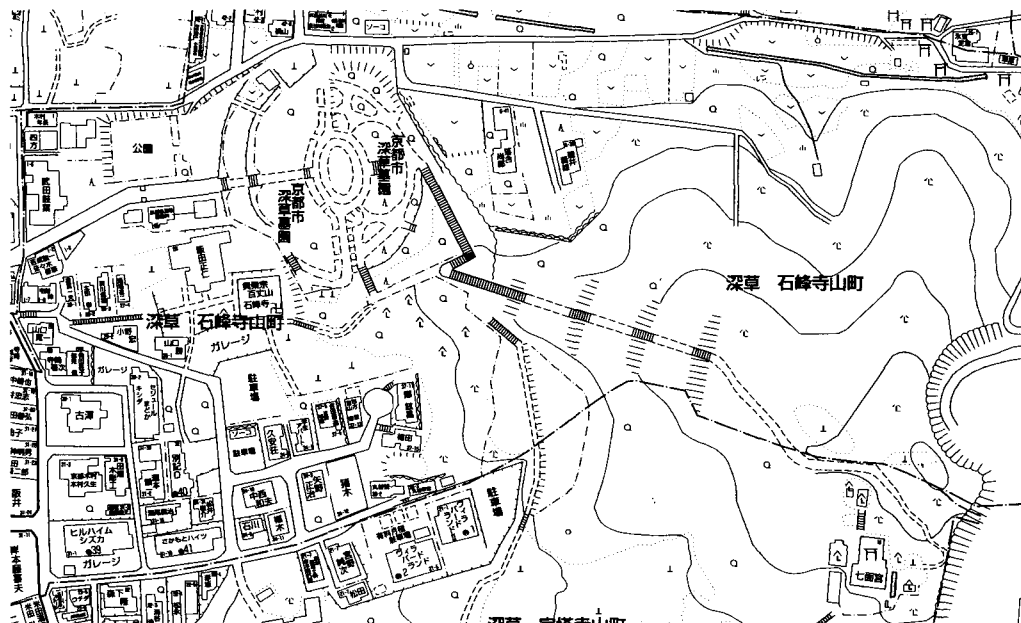
『京都の戦争遺跡をめぐる』1991 年 11 月 1 日，池田一郎・鈴木哲也著，機関紙共同出版刊

「大京都市街地図」1936 年 6 月 10 日，和楽路屋本店刊

「住宅地図」に京都市深草墓園の記載



39 京都 伏見陸軍墓地 1997 年 4 月 30 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 1999

40 福知山陸軍墓地

福知山市南本堀 平和墓地

1936年にここへ移転 この時 2700 坪

それまで宝射撃場の一角にあった

1934年4月～1936年6月の満州での戦病死者32名を合祀するために満州事変の合同墓碑を1936年6月15日に建てるが、今は見えない

1万になる

敗戦直後 2727 坪 旧陸海軍墓地調

1224 坪 旧陸軍墓地調査表

敗戦 破壊撤去

1958年3月21日 墓地の整地と拡張竣工

平和墓地と改称

1万 8558 人 合祀

忠霊塔もこの時移動という

国有地で福知山市が借受、管理も福知山市

祭祀

2000年現在 慰霊団体は遺族会、慰霊祭は9月23日

7段になっていて、個人墓は4段にほとんどがある 67基

最上段 忠霊塔 1958年3月21日建

平和墓地の由来碑 1958年3月21日建

次の段 特になし

次の段 将校の個人墓 9基 1914年から1936年

次の段 下士の個人墓 13基 1900年前後から1945年

次の段 兵卒の個人墓 18基 1900年前後

次の段 兵卒の個人墓 25基 1900 年前後
ロシア人俘虜の墓 1 基
次の段 下士の個人墓 1 基 異形
軍用動物の墓
鎮魂 1980 年 4 月建 比日米軍人のためのもの
竣工記念碑 1959 年 5 月 21 日建
建設の由来の碑 1936 年 6 月 15 日建

歩兵第 20 連隊の墓地

参考資料

『福知山連隊史』1975 年 4 月 1 日刊

『福知山市史』4 巻, 1992 年 3 月 31 日刊

『角川日本地名大辞典』京都府 下巻, 1982 年 7 月 8 日, 角川書店刊

「住宅地図」に平和墓地の記載



40 福知山陸軍墓地 2001 年 10 月 16 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2000

41 舞鶴陸軍墓地

舞鶴市福来

敗戦直後 1726 坪

5547㎡

2216.90 坪

一般の共同墓地に

国有地, 維持管理は有志

個人墓 9 基 1899 年から 1913 年死

兵卒 7 基 内 1 基倒壊

下士 1 基 曹長

将校 1 基 中尉

舞鶴重砲兵の陸軍墓地

参考文献

『舞鶴市史』通史編下, 1982 年 7 月 10 日刊

『舞鶴市史』現代編, 1988 年 9 月 1 日刊

『京都の戦争遺跡をめぐる』1991 年 11 月 1 日, 池田一郎・鈴木哲也著, 機関紙共同出版刊

41 舞鶴陸軍墓地 1999年4月26日撮影



42 大阪 真田山陸軍墓地

大阪市天王寺区玉造本町14番

敗戦直後 5252 坪

国有地で大阪市が借受，管理も大阪市

祭祀

1962年現在 大阪靖国霊場維持会主催で，11月，維持の直接担当も大阪靖国霊場維持会

2000年現在 慰霊団体は大阪靖国霊場維持会，慰霊祭は10月

納骨堂 仮忠霊堂として 1943年8月25日建

合葬墓

日露戦争戦病死者合葬碑

将校・準士官・下士・兵卒の階級別

満州事变戦病没将兵合葬碑

個人墓 4870基と整理されて塚の形に積みあげられた墓石が260基以上

内 清国人 8基

ドイツ人 2基

外に 戦後の野田村のもの 169基

第4師団の陸軍墓地

参考文献

原田敬一「『万骨枯る』空間の形成」『仏教大学文学部論集』82号，1998年3月2日刊，所収

掘田暁生「真田山旧陸軍墓地について」『大阪城と城下町』2000年12月，思文閣出版刊，所収

横山篤夫「旧真田山陸軍墓地の祭祀担当団体の成立に就いて」『大阪民衆史研究』50号，2001年12月刊，所収

横山篤夫『戦時下の社会』2001年3月，岩田書院刊

『旧真田山陸軍墓地を考える』1～3，2001年11月～2002年9月，旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会刊

『大阪の戦争遺跡ガイドブック』1987年7月20日，戦争体験を記録する会編，清風堂書店刊

『大阪府忠魂碑等調査集』1995年10月20日，大阪府護国神社刊

『角川日本地名大辞典』大阪府，1983年10月8日，角川書店刊

「住宅地図」に大阪靖国軍人墓地の記載

43 高槻陸軍墓地

高槻市天神町2丁目6番 天神山図書館の隣

敗戦直後 865坪

碑

旧陸軍工兵之墓 1979年3月建 高槻遺族会

個人墓

兵 12基 1912～1920年ぐらい

将校 2基 中尉1919年5月10日死と少佐1933年12月6日死

第4工兵大隊（のち連隊）の陸軍墓地



43 高槻陸軍墓地 1999年7月13日撮影

44 信太山陸軍墓地

和泉市黒鳥町4丁目6番 黒鳥山公園

国有地，和泉市が無償賃借

3448坪 別に参道が177坪

忠霊塔

1939年から計画

1941年11月21日着工

1942年4月23日建 5月8日献納式 納骨式

高さ13m

1564余名分 納骨

和泉市が維持管理

祭祀団体は和泉市遺族会 8月に御霊祭

個人墓・合葬墓なし

参考文献

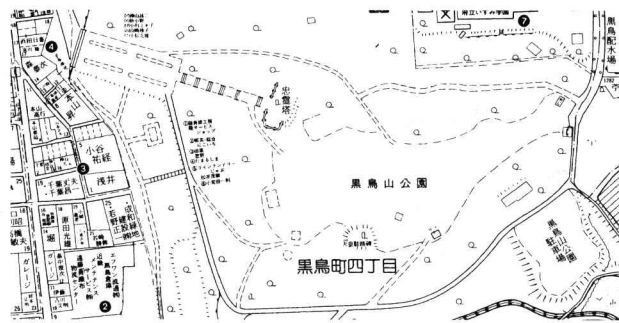
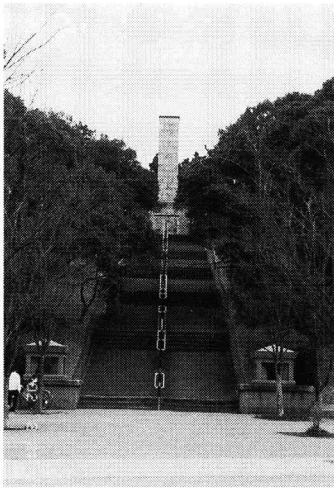
森下徹「信太山忠霊塔（信太山陸軍墓地）について」『旧真田山陸軍墓地を考える』2, 2002年4月，

旧真田山陸軍墓地とその関係を考える会刊，所収

『野砲兵第四連隊史並びに関連諸部隊史』1982年4月11日刊

『角川日本地名大辞典』大阪府，1983年10月8日，角川書店刊

「住宅地図」に黒鳥山公園・忠霊塔の記載



© ZENRIN CO., LTD 2001

44 信太山陸軍墓地 2002年2月21日撮影

45 篠山陸軍墓地

篠山市沢田 王地山麓

敗戦直後 1246 坪

土地所有者は王地山遺芳会

祭祀

1962年現在 団体主催で、5月

2000年現在 慰霊団体は遺族会、慰霊祭は5月、管理も遺族会

納骨堂

忠霊殿として1943年創建

戦後遺芳殿に改称

死者3万2000人

個人墓

少尉の個人墓1基 1918年11月14日死

最上段

兵卒の墓 27基

区画よく残る ゆったりと 一段下がった所

1909年3月1日～1922年9月13日死

遺族会館 1986年建設 軍旗日誌と軍旗の竿頭と旗地の一部保存

歩兵第70連隊の陸軍墓地

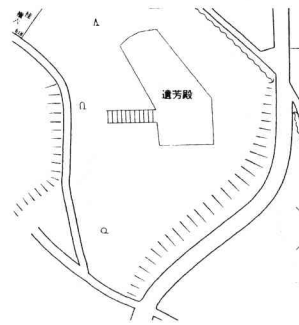
参考文献

『わが連隊』1978年10月30日、ノーベル書房刊

「住宅地図」に遺芳殿の記載



45 篠山陸軍墓地 2000年1月11日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2000

46 姫路 栗林山陸軍墓地

姫路市名古山町 14 番 1 号 名古山霊園

敗戦直後 19675 坪

1951 年から造苑工事 改葬

国有地で姫路市が借受，管理も姫路市

祭祀

1962 年現在 姫路市主催で，秋季

2000 年現在 慰霊団体は姫路郷友会，慰霊祭は 8 月 10 日

納骨堂

11 万 1504 人

1955 年 7 月建

個人墓 約 761 基

日露戦争と満州事変の 2 つのピラミット状に

ドイツ軍俘虜 3 人の墓

元は 6 人だが 3 人分は帰国

第 10 師団の陸軍墓地

参考文献

『歩兵第三十九連隊史』1983 年 3 月 24 日，歩兵第三十九連隊軍旗奉賛会刊

『歩兵第十連隊史』1974 年 4 月 18 日，歩兵第十連隊史刊行会刊

『名古山霊苑協会創立三十周年記念誌』1996 年 3 月刊

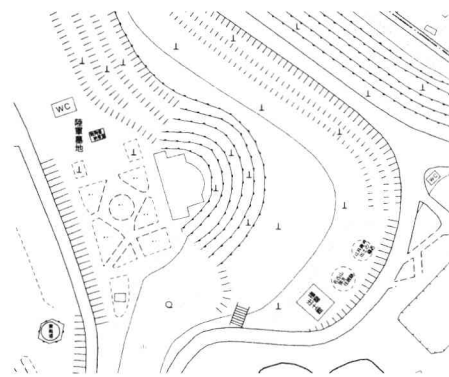
「姫路市全図」1930 年 9 月 5 日，平田幾治編・刊

『角川日本地名大辞典』兵庫県，1988 年 10 月 8 日，角川書店刊

「住宅地図」に姫路市名古山霊苑・陸軍墓地の記載



46 姫路 栗林山陸軍墓地 1998年10月6日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

47 奈良陸軍墓地

奈良市古市町

敗戦直後 1675 坪

5649 m²

国有地で奈良県が借受

祭祀

1962年現在 団体主催で、年2回春・秋、維持管理は団体

2000年現在 慰霊団体は奈良県至誠会、慰霊祭は3月10日、管理は奈良市

合葬墓碑

歩兵第三十八連隊将兵英霊合祀之碑 1934年3月建

1925年4月奈良市高畑移転にともない

京都七面山陸軍墓地の英霊祀る

満州事変戦病没者合同墓碑 1936年5月30日建

個人墓

将校 3基

1919年7月19日 寛城子戦死 1人 大尉

1919年7月21日 寛城子戦死 1人 大尉

1920年11月9日 北満州八家子戦死 1人 大尉

下士 10基

1919年3月5日 チチハル傷死 1人

1919年6月15日 沿海州戦死 1人

以上2基 歩兵第53連隊準士官下士団が建てたもの

1919年7月21日 寛城子戦死 5人

1919年7月21日 ペーラムヤ戦死 1人

1920年11月9日 北満州八家子戦死 1人

1921年3月15日 死

兵 21基

上とがっている 6基 1910年～1919年3月死

上平ら 15基 1919年～1920年死

1919年7月19日 寛城子戦死 11人

1927年4月24日 傷死

歩兵第 53 連隊の陸軍墓地

1909 年 3 月 新設

1925 年 3 月 廃止

歩兵第 38 連隊の陸軍墓地

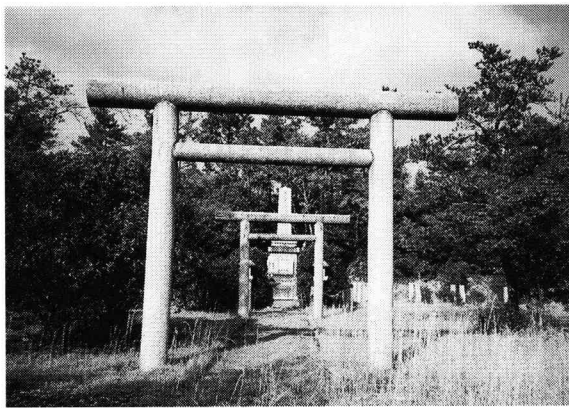
1896 年 12 月 京都深草に新設

1925 年 4 月 奈良市高畑町に移転

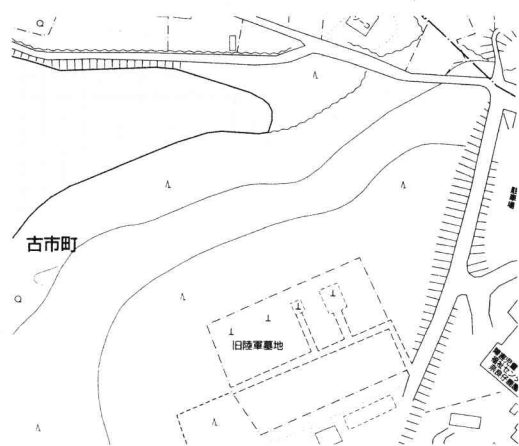
宝塔寺山町にあった七方面山陸軍墓地からもってくる

参考文献

「住宅地図」に旧陸軍墓地の記載



47 奈良陸軍墓地 1998 年 12 月 26 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

48 和歌山陸軍墓地

和歌山市掘止西 2 丁目 13 番

1909 年に歩兵第 61 連隊が衛戍してから

敗戦直後 2248 坪

忠霊塔

1939 年 1 月 軍、忠霊塔を各衛戍地に一カ所ずつ建立し、個々の建設をやめ、合祀するよう指示

1939 年 2 月 2 日歩兵 61 連隊留守部隊が墓地内に忠霊塔を建設し、遺骨収容し顕彰することを発表

県仏教会が資金など調達し、建立し寄付する

1939 年 12 月 師団が建立許可

1940 年 9 月 17 日

陸軍墓地改装供養 午後万性寺に移される

墓石のほとんど 101 基は万性寺に移される

一部は遺族に引き取られる

1941 年 1 月忠霊塔完了 1 月 15 日献納式、納骨式

5 月 5 日外苑竣工式

1941 年 11 月 30 日

改装後の残骨を集めて埋葬した場所に合葬碑を建てる

祭祀

2000 年現在 慰霊団体は忠霊塔護持会、慰霊祭は 5 月 5 日と 10 月 5 日、

管理も忠霊塔護持会

歩兵第61連隊の陸軍墓地

参考文献

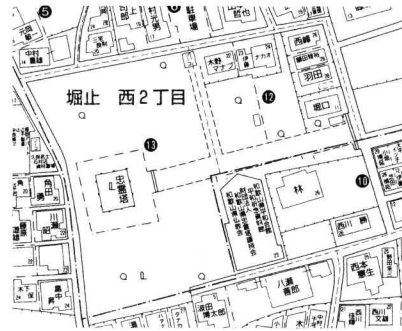
『平和へのいしずえ—和歌山県忠霊塔沿革史—』1990年4月20日，和歌山県忠霊塔護持会刊

『角川日本地名大辞典』和歌山県，1985年7月8日，角川書店刊

「住宅地図」に忠霊塔の記載

48 和歌山陸軍墓地

1997年5月22日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

49 深山陸軍墓地

和歌山市加太 深山

深山重砲兵連隊の跡地の奥 森林公園の手前

入口手前看板 旧深山要塞重砲兵連隊陸軍墓地

敗戦直後 1432 坪

国有地で和歌山市が借受，管理も和歌山市

祭祀

2000年現在 慰霊祭主催者が死亡後実施せず

三段

上段

明治三十七八年戦役将校同相当官戦病死者合葬碑

明治三十七八年戦役準士官戦病死者合葬碑

明治三十七八年戦役下士戦病死者合葬碑

明治三十七八年戦役兵卒戦病死者合葬碑

いずれも1906年11月建

砲兵少尉の個人墓

戦病没者之碑

木製 戦後

中段

下士の墓 4基

1896・1897・1903・1907年死

軍曹・看護・一等計手

下段 左右に別れ

兵の墓 47 基

向かって左 18 基 右 29 基

1935 年死まで

昭和期のもの 柱状でなく 太く、下が広くなるもの



49 深山陸軍墓地 2000 年 12 月 18 日撮影

50 鳥取陸軍墓地

国府町大字町屋字向土井 533 番地 1

1897 年設置

正雲寺が土地を提供

1935 年改修 改修記念碑

敗戦直後 42856 坪 旧陸海軍墓地調

2856 坪 旧陸軍墓地調査表

1954 年 鳥取県へ移管 管理も鳥取県

祭祀

1962 年現在 鳥取県主催で、3 月に

2000 年現在 慰霊祭は鳥取県主催で、10 月下旬に

合葬碑

明治三十七八年戦役 陣亡兵卒遺骨合葬碑 1906 年 10 月 12 日建

明治三十七八年戦役 陣亡下士遺骨合葬碑 1906 年 10 月 12 日建

明治三十七八年戦役 陣亡準士官遺骨合葬碑 1906 年 10 月 12 日建

明治三十七八年戦役 陣亡将校遺骨合葬碑 1906 年 10 月 12 日建

慰霊塔

戦没者慰霊塔 鳥取県 1953 年 5 月建

個人墓 129 基

兵卒 75 基 日露前後 8 基

満州事变 67 基

下士 46 基 日露前後 42 基

満州事变 4 基

準士官 2 基 満州事变 2 基

将校 6 基 日露前後 1 基

満州事变 5 基

歩兵第 40 連隊の陸軍墓地

参考文献

- 『国府町誌』1982年1月1日刊
『鳥取県史』近代1 総説編, 1969年9月30日刊
『因伯の礎』1995年11月30日, 鳥取県遺族会刊
『角川日本地名大辞典』鳥取県, 1982年12月8日, 角川書店刊
「住宅地図」に陸軍墓地の記載

50 鳥取陸軍墓地

1999年10月23日撮影



© ZENRIN CO., LTD
2002

51 浜田 長沢陸軍墓地

浜田市長沢町 長沢公園

1901年築造

1946年墓地管理を陸軍省から大蔵省へ

敗戦直後 1935坪

1957年4月11日 大蔵省から浜田市へ無償貸与 管理も浜田市

面積 5554.24㎡

戦後慰霊祭

はじめ 浜田宗教連盟 奉仕

のち 浜田郷友会 挙行

神式・仏式 毎年 交互に

祭祀

1962年現在 団体主催で, 秋季に

2000年現在 慰霊団体は奉賛会, 慰霊祭は11月上旬に

最上段 日清・日露戦役陣没将卒之碑

次の段 個人墓 個人墓全体で1900年から1907年ぐらいの間

兵卒 199基

次 個人墓

佐官 1基

尉官 8基

次 個人墓

兵卒 16基

下士 11基

特務曹長 4基

次 旬国慰霊塔 1957年7月建 慰霊塔建設奉賛会

のち陸軍墓地奉賛会

真光寺に預けていた分骨を納骨
次 鎮魂彼我之英霊 1978年10月建

中国の軍人住民も

歩兵第21連隊の陸軍墓地

参考文献

『浜田連隊史』1973年4月10日、歩21会刊

『遺族の道ひとすじに 島根県戦没者記録』1995年4月21日、島根県遺族連合会刊

『戦没者遺族会記念誌』1995年9月1日、浜田市戦没者遺族連合会刊

『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

「住宅地図」に長沢公園の記載



51 浜田 長沢陸軍墓地 2000年6月12日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

52 松江陸軍墓地

松江市古志原西津田9丁目10番 緑山公園

1908年築造

4000坪 1万3177㎡

1939年末 個人墓411基

「満州事変忠死者之碑」あった

1940年仮納骨堂建てる

太平洋戦争末期 1000人遺骨迎える

敗戦直後 3838坪 旧陸海軍墓地調

1613坪 旧陸軍墓地調査表

1947年 島根軍政本部 松江市長に 陸軍墓地撤去命令

市長 改造を松江宗教連盟に委嘱

慰霊塔 基部に納骨室 1948年10月10日完成

墓地改装し、遺骨入れる 墓碑は灯籠台石に

島根県の全戦没者の合葬墓碑

1956年10月 政府から市へ無償譲渡 公園墓地として市民に開放 管理も松江市

現在、公園墓地、緑山苑になり記念碑のみ残る

壊れた個人墓が寝かされて残っている

祭祀

1962年現在 有志主催で、年1回

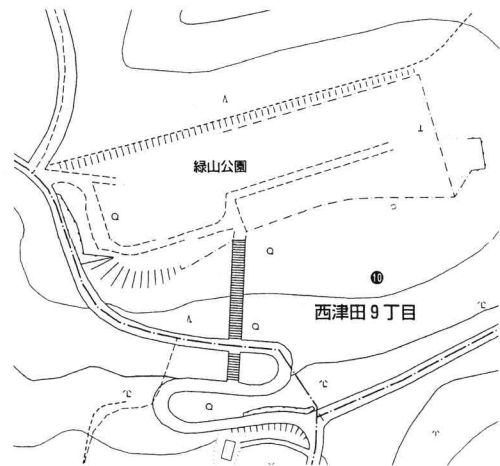
2000年現在 松江市主催で、慰霊祭は10月20日に
歩兵第63連隊の陸軍墓地

参考文献

- 『歩兵第六十三連隊史』1974年7月30日、歩兵第六十三連隊史編纂委員会刊
『遺族の道ひとすじに 島根県戦没者記録』1995年4月21日、島根県遺族連合会刊
『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊
「住宅地図」に緑山公園の記載



52 松江陸軍墓地 1999年5月3日撮影



53 岡山陸軍墓地

岡山市津高 半田山

敗戦直後 4112 坪 旧陸海軍墓地調

3370 坪 旧陸軍墓地調査表

国有地

祭祀

1962年現在 岡山市主催で、年2回春秋、維持管理は岡山市

2000年現在 慰霊団体は岡山市遺族連合会で、慰霊祭は春秋彼岸日に、管理は戦没者顕彰会

碑 5基

満州事変忠死者之碑 1933年建

下に納骨室がある 今は骨はない

歩兵第十連隊戦病死将兵合祀之碑 1933年9月建

工兵第十大隊戦病死将兵合祀之碑 1933年9月建

大東亜戦争戦没者慰霊碑、他 戦後

個人墓

満州事変・日中戦争期

4段 原型よく残る

約517基

岡山県の全戦没者の合葬墓碑

岡山県戦没者忠霊塔

岡山県奥市3番21号 護国神社境内に

1887人分

祭祀

1962 年現在 団体主催で、年 1 回、維持管理も団体

参考文献

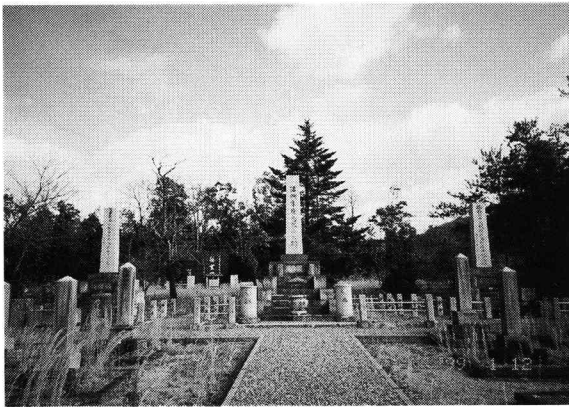
『歩兵第十連隊史』1974 年 4 月 18 日、歩兵第十連隊史刊行会刊

『援護の歩み』1996 年 8 月、岡山県編・刊

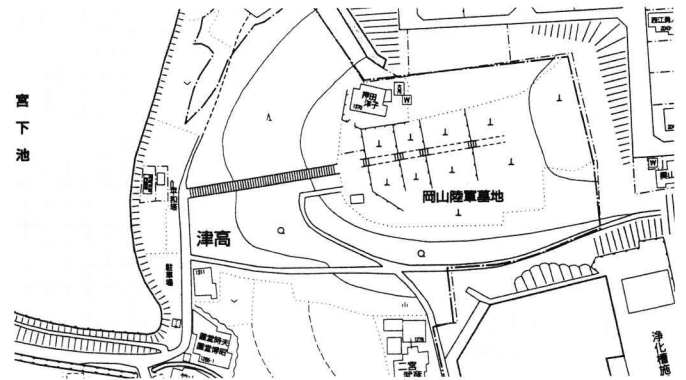
『碑』1982 年 8 月 30 日、平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』岡山県、1989 年 7 月 8 日、角川書店刊

「住宅地図」に岡山陸軍墓地の記載



53 岡山陸軍墓地 1999 年 1 月 12 日撮影



© ZENRIN CO., LTD

54 広島 比治山陸軍墓地

広島市南区比治山公園 6 番 比治山公園

1872 年 10 月 13 日 陸軍埋葬地を比治山と定める 2280 坪 起源

西南戦争からの戦没者も

比治山西南高地一帯 一基ずつ建つ

1944 年 軍市協議

墓標取り除き 合同墓標に 奉安合祀 忠霊塔の建設

墓石壕に埋め 遺骨掘り起こして 仮納骨堂に収納

工事半ばで 原爆と終戦

仮納骨堂 台風で倒れ遺骨散乱

10 数年放置

敗戦直後 16875 坪

1955 年から 5 年かかり再建

合同碑の建て直し

墓石の掘り起こし 県別整理

おれた墓石の組み合わせ

墓名簿の作成

県別 原籍・氏名・戦病死地・墓石の位置

3 月 10 日広島市長が慰霊祭を開く

春秋 2 季の法要 現在は 4 月第 1 日曜日の 1 回の追悼式に

国有地で広島市が借受

祭祀

1962 年現在 広島市主催で、3 月に、維持管理は広島市

2000年現在 慰霊団体は奉賛会で、慰霊祭は4月第1日曜日、管理も奉賛会
合葬墓 6基

陸軍軍人合葬之墓 5基 1896年3月27日建

陸軍軍属合葬之墓 1基 1896年3月27日建

大東亜戦争台湾出身戦没者供養碑もある

清国人俘虜5人の合同墓碑もある

広島陸軍病院で死亡

新しい慰霊碑も9基ある

個人墓

府県ごとにまとめて、10段に並べている 3395基 45の都道府県出身者
戦前より500基余り不足

供養碑たてる 1977年4月 比治山陸軍墓地保存協賛会

義和団戦争でのフランス人戦傷病没者墓7人、ドイツ人俘虜1人の墓もある

フランス人墓地 1900年12月25日除幕式

第5師団の陸軍墓地

参考文献

空辰男『加害基地字品』1994年7月10日、汐文社刊

比治山陸軍墓地を守る会編『広島比治山陸軍墓地ガイド・副読本』2001年2月刊

山口茂昭『広島比治山陸軍墓地ガイド』2000年12月刊

山口茂昭『比治山陸軍墓地略誌』1998年10月、広島比治山陸軍墓地奉賛会刊

「比治山陸軍墓地略誌」1964年4月10日、比治山陸軍墓地保存協賛会

「比治山陸軍墓誌」1961年3月10日再建、比治山旧陸軍墓碑復興会

原田敬一「『万骨枯る』空間の形成」『仏教大学文学部論集』82号、1998年3月2日刊、所収

松山幸夫「日本人と戦争」『近代日本の形成と日清戦争』2001年4月20日、雄山閣刊、所収

『新修広島市史』2巻、1958年3月1日刊

『歩兵第十一連隊史』1993年12月8日、鯉十一編・刊

陸上自衛隊第13師団広島師団史研究委員会編『広島師団史』、1969年12月8日

陸上自衛隊海田市駐とん部隊修親会刊

『ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 広島』1981年5月20日、国書刊行会刊

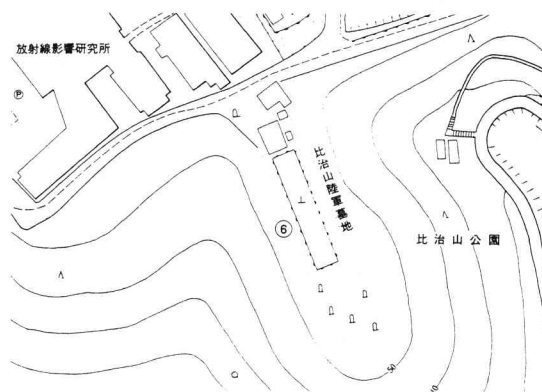
『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』広島県、1987年3月8日、角川書店刊

「住宅地図」に比治山陸軍墓地の記載



54 広島 比治山陸軍墓地 2001年12月23日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2000

55 広島 戸坂山陸軍墓地

広島市東区戸坂

敗戦直後 4027 坪

確認できない

56 福山陸軍墓地

福山市草戸町 明王院墓地

敗戦直後 2040 坪

遺骨は遺族に引き取らせた

痕跡なし

歩兵第 41 連隊の陸軍墓地



56 福山陸軍墓地跡 2001 年 5 月 2 日撮影

57 山口 山崎陸軍墓地

山口市宮野下

敗戦直後 1069 坪

102 坪（番宅）

国有地

1947 年 8 月 15 日山口県遺族連盟が管理

祭祀

2000 年現在 慰霊団体は不明、慰霊祭は月日も不明、管理者も不明

合葬墓

戦病死将兵合同之碑 1936 年 11 月建 歩兵第 42 連隊将兵一同

個人墓

佐官 1 基

尉官級 7 基

特務曹長 2 基

下士 26 基

兵卒 300 基

1900～1905 年が多い その直前も少しある

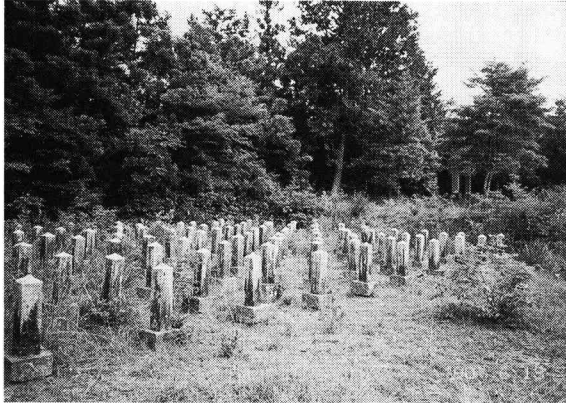
歩兵第 42 連隊の墓地

参考文献

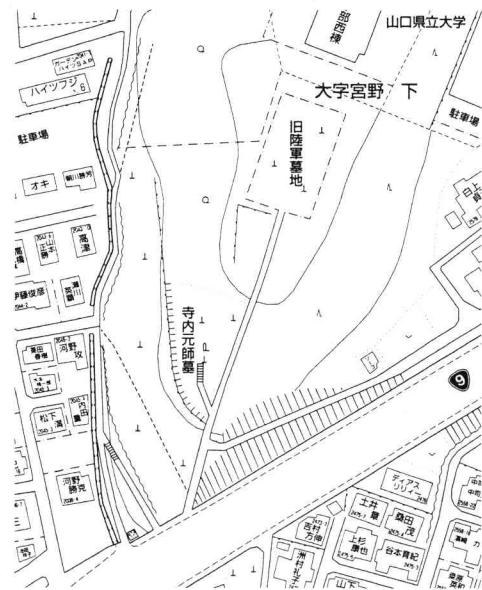
『山口県遺族連盟 五十年誌』1997 年 9 月刊

「最新山口市街図」1931 年 10 月 10 日、白金市太郎編・刊

「住宅地図」に旧陸軍墓地の記載



57 山口 山崎陸軍墓地 2000年6月13日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

- 58 山口 初瀬ヶ原陸軍墓地
山口市八幡馬場町
敗戦直後 201 坪
1962 年の調査では
個人墓 66 基
場所を確認できない
山口県全戦没者の合葬墓碑
防長英霊塔
山口市宮野下 江良
陸軍墓地や護国神社の西
1962 年 10 月 13 日建
4800 人
旧陸軍墓地からも遺骨を持ってきて入れる
明治維新から太平洋戦争まで
- 59 下関 部府前陸軍墓地
敗戦直後 1012 坪
1962 年の調査では
個人墓 21 基
合葬墓 3 基
その後整備し、下関市後田 4 丁目 14 番の後田公園に
今は個人墓・合葬墓なし
忠霊塔
墓地近くの丘の上に建つ

下関市後田町 5 丁目 34 番 戦場ヶ原公園

1942 年 3 月建

4300 人

日露戦争まで 57 人

日中戦争 320 人

太平洋戦争 3500 人

不明

祭祀

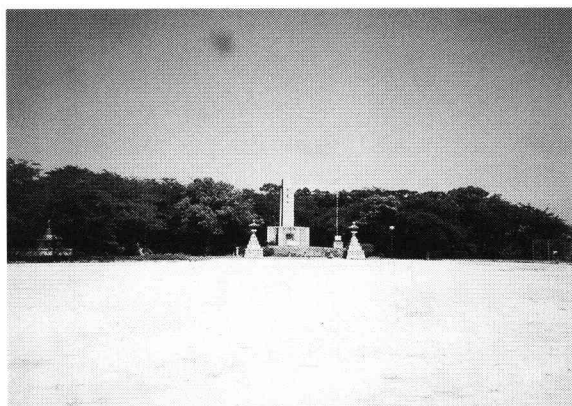
2000 年現在 慰霊団体は下関市連合遺族会，慰霊祭は 10 月に，管理も下関市連合遺族会
下関重砲兵連隊の陸軍墓地

参考文献

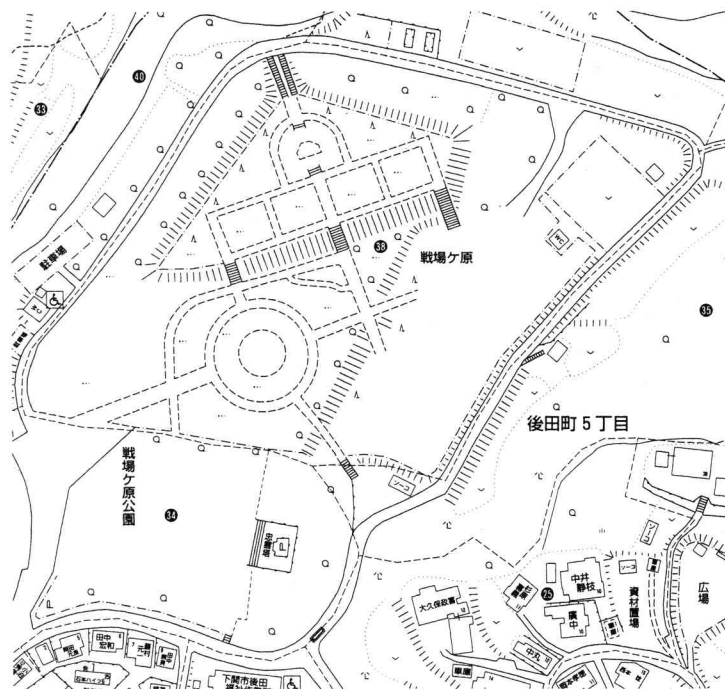
「戦場ヶ原忠霊塔の由来」1995 年 8 月

『山口県遺族連盟 五十年誌』1997 年 9 月刊

「住宅地図」に戦場ヶ原公園・忠霊塔の記載



59 下関 忠霊塔 2000 年 6 月 13 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

60 徳島 蔵本陸軍墓地

徳島市加茂名町 西部公園

敗戦直後 3067 坪 旧陸海軍墓地調

2363 坪 旧陸軍墓地調査表

1952 年 4 月 1 日徳島市へ移管 陸軍墓地は西部公園になる

国有地で徳島市が借受，管理も徳島市

祭祀

1962 年現在 団体主催で，5 月に

2000 年現在 慰霊団体は忠霊塔を守ろう会で，慰霊祭は 5 月連休中

忠霊塔

1942年8月8日完成の碑 10月27日建立

1939年5月から計画し、墓地整理

個人墓なし

ドイツ人2基あり

歩兵第43連隊の陸軍墓地

参考文献

『四国師団史』1972年4月，陸上自衛隊第13師団司令部編

『碑』1982年8月30日，平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』徳島県，1986年12月8日，角川書店刊

「住宅地図」に西部公園・忠霊塔の記載



© ZENRIN CO., LTD
2001

60 徳島 蔵本陸軍墓地
1999年10月19日撮影

61 丸亀陸軍墓地

丸亀市土器町東6丁目

敗戦直後 1820坪

国有地で丸亀市が借受 管理も丸亀市

善通寺より古いものがある

墓の間隔など原形よく残す 南側

うぶすな神社を創ったため少し狭くなる 一部移している 北側

祭祀

1962年現在 団体主催で、年1回盆に

2000年現在 丸亀市主催で、慰霊祭は8月15日に

合葬墓 5基

満州事変戦没将士合葬之墓 1933年3月建

将校合葬墓碑

戦死軍人合葬墓碑

病死軍人合葬墓碑

病死軍属軍夫合葬之墓碑

個人墓	200 基	(1962 年現在)
兵卒その他	約 156 基	初期の合同墓碑あり
下士	約 23 基	
将校	約 16 基	
ドイツ人	1 基	
ロシア人	1 基	

参考文献

『四国師団史』1972 年 4 月，陸上自衛隊第 13 師団司令部編
「住宅地図」に陸軍墓地の記載



61 丸亀陸軍墓地 1999 年 10 月 18 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

62 善通寺陸軍墓地

善通寺市生野町

敗戦直後 3012 坪

国有地で善通寺市が借受 管理も善通寺市

祭祀

1962 年現在 善通寺市主催で，年 1 回

2000 年現在 慰霊団体は善通寺市遺族連合会で，慰霊祭は 8 月 15 日に

下段

向かって左

兵卒個人墓 26 基

陸軍軍人合葬之墓 1908 年建

向かって右

下士個人墓 5 基

陸軍軍人合葬之墓 1908 年建

明治三十七八年戦役戦病死者合葬之墓

上段

向かって左

戦没将士合葬之墓

満州事変戦没将士合葬之墓

向かって右

日華事変及太平洋戦争戦没者之墓 戦後のもの 1949 年建

少し下がって

将校個人墓 1基 1936年

中間に

将校個人墓 5基 日露戦争期

第11師団の陸軍墓地

参考文献

『四国師団史』1972年4月，陸上自衛隊第13師団司令部編

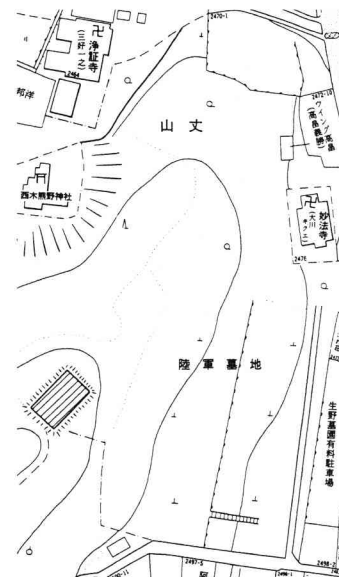
『碑』1982年8月30日，平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』香川県，1985年10月8日，角川書店刊

「住宅地図」に陸軍墓地の記載



62 善通寺陸軍墓地 1999年10月18日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

63 松山 丸山（円山）陸軍墓地

松山市北斎院町25番地外

1878年9月設置

敗戦直後 2747坪

8584㎡

国有地で愛媛県が借受

祭祀

1962年現在 団体主催で，春・盆・秋，維持管理も団体

2000年現在 愛媛県主催で，慰霊祭は8月15日に，管理も愛媛県慰霊塔。

忠霊塔建設に着手

終戦で中断

慰霊塔 1954年9月建

2888人

秋分の日に慰霊祭

愛媛県の全戦没者の合葬墓碑

合葬墓

満州事変戦没将士合葬之墓 1933年3月建 17人

供養塔

1943年4月1日 西部62部隊

個人墓

将校 1基

佐官 9基 うち4基は大 日露以前

尉官 30基か31基 うち6基は大 日露以前

特務曹長 2基

1937年のものまである

歩兵第22連隊の陸軍墓地

参考文献

『四国師団史』1972年4月，陸上自衛隊第13師団司令部編

『写真集 愛媛の慰霊碑』1993年4月24日，愛媛友愛会編・刊

「住宅地図」に丸山墓地・愛媛県戦没者慰霊塔の記載



63 松山 丸山陸軍墓地 2000年4月25日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

64 ロシア人墓地

松山市御幸1丁目531の2 来迎寺墓地内

敗戦直後 201坪

ロシア人 日露戦争捕虜 98基 大佐1基 下士15基 兵卒82基

ドイツ人 1基 1916年11月6日

アメリカ人 1基 海軍艦載機 1945年8月9日

参考文献

『愛媛県史』近代上，1986年3月31日刊

「住宅地図」にロシア人墓地の記載



64 松山 御幸村陸軍墓地 2000年4月25日撮影



2002

65 高知 朝倉陸軍墓地

高知市朝倉丁

1896年～

日露	2198人
シベリア出兵	42人
満州事変	9人
日中・太平洋戦争	9818人
合計	12000人

日中・太平洋戦争 9818人のうち

遺骨	4868
遺品	4583
無縁	27
氏名所在不明	300

敗戦直後 1294坪 旧陸海軍墓地調

1080坪 旧陸軍墓地調査表

国有地

祭祀

1962年現在 団体主催で、年2回春・秋、維持管理も団体

2000年現在 慰霊団体は朝倉老人会か、慰霊祭は実施していない、管理は遺族会

忠霊塔

合葬墓

日露役戦没者墓碑 1939年11月5日建 2198人

満州事変戦没将士合葬之墓 1933年9月16日建

個人墓

佐官	4基
尉官	12基
特務曹長	2基
下士	10基
兵卒	36基

大体日露戦争

歩兵第44連隊の陸軍墓地

1945 年 8 月 16 日 軍旗焼く

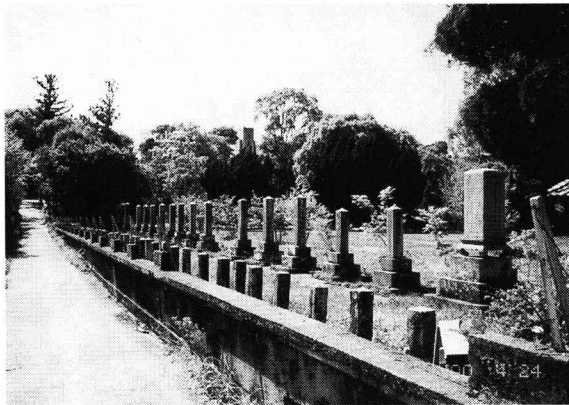
9 月 10 日 復員式

参考文献

『四国師団史』1972 年 4 月，陸上自衛隊第 13 師団司令部編

『ガイドブック 高知の戦争遺跡』2000 年 7 月 4 日，戦争遺跡保存ネットワーク高知編，平和資料館・草の家刊

「住宅地図」に旧朝倉陸軍墓地・忠霊塔の記載



© ZENRIN CO., LTD 2002

65 高知 朝倉陸軍墓地 2000 年 4 月 24 日撮影

66 小倉 千堂陸軍墓地

北九州市小倉北区新高田 1 丁目 1 番 1 号 小倉南小学校

敗戦直後 3852 坪

遺骨は遺族に

残っていない

小倉忠霊塔

北九州市小倉北区黒原 1 丁目 5 番 足立森林公園

1942 年 3 月 25 日建

陸軍墓地の移転先か

祭祀

2000 年現在 慰霊団体は遺族会，慰霊祭は 5 月 7 日に，管理は北九州市

参考文献

『福岡県戦没者遺族の五十年』1995 年 8 月 1 日，福岡県遺族連合会刊

『角川日本地名大辞典』福岡県，1988 年 3 月 8 日，角川書店刊

「住宅地図」に平和公園・忠霊塔の記載



66 小倉 千堂陸軍墓地跡 2001年5月1日撮影

67 小倉 高坊陸軍墓地

北九州市小倉北区高坊1丁目7番 市営住宅用地
敗戦直後 3136坪
残っていない



67 小倉 高坊陸軍墓地跡 2001年5月1日撮影

68 福岡 谷陸軍墓地

福岡市中央区谷2丁目11番 谷公園
敗戦直後 2170坪 旧陸海軍墓地調
2040坪 旧陸軍墓地調査表
国有地で福岡県が借受
祭祀

1962年現在 福岡市主催で、8月に、維持管理は福岡県

2000年現在 慰霊団体は郷友連福岡支部、慰霊祭は10月第3土曜日に、管理は福岡市

合葬墓 6基 1935年と1940年建

日清戦役戦病没者之墓	1935年建
日露戦役戦病没者之墓	1935年建
殉職将兵合葬之墓	1935年建
青島及西比利亞戦役戦病没者之墓	1935年建
満州及上海事変戦病没者之墓	1940年建
支那事変戦病没者之墓	1940年建

碑

日清戦争の忠死者の碑 兵卒と下士と各1基

大東亜戦争戦没者之碑 1982年5月30日建

その他に戦後建てられた碑あり

個人墓 15基 (1962年現在調査)

将校7基 下士4基

歩兵第24連隊の陸軍墓地

参考文献

『福岡県戦没者遺族の五十年』1995年8月1日、福岡県遺族連合会刊

『わが連隊』1978年10月30日、ノーベル書房刊

『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』福岡県、1988年3月8日、角川書店刊

「住宅地図」に谷公園・陸軍墓地の記載



68 福岡 谷陸軍墓地 1999年8月21日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

69 福岡 千代松原陸軍墓地

福岡市博多区東公園7番 東公園

敗戦直後 618坪

国有地

残っていない

招魂社の看板あり

招魂社が護国神社になり、移転後も墓が残っていたが

1962年調査で個人墓100基

東公園の整備により、墓の遺骨を谷陸軍墓地に改葬



69 福岡 千代松原陸軍墓地跡 2001年4月30日撮影

70 久留米陸軍墓地

久留米市野中町1-8 競輪場隣

敗戦直後 3642 坪

管理は久留米市

祭祀

2000年現在 慰霊団体は遺族会、慰霊祭は5月

忠霊塔 1941年10月建

5048人の分骨

17m

1939年7月着工

1941年4月10日完成

個人墓、合葬墓なし

第12師団の陸軍墓地

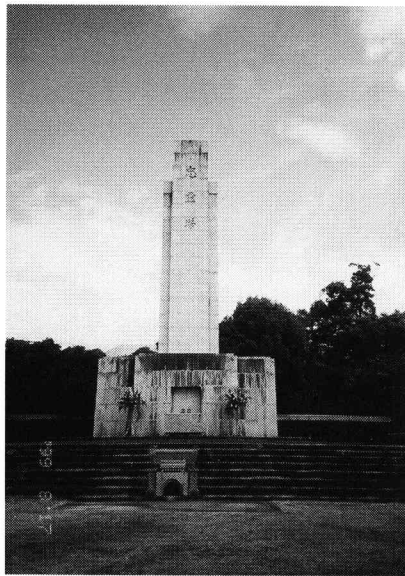
忠霊塔敷地参道手前横を入った所に、ドイツ人俘虜の墓 1基あり

参考文献

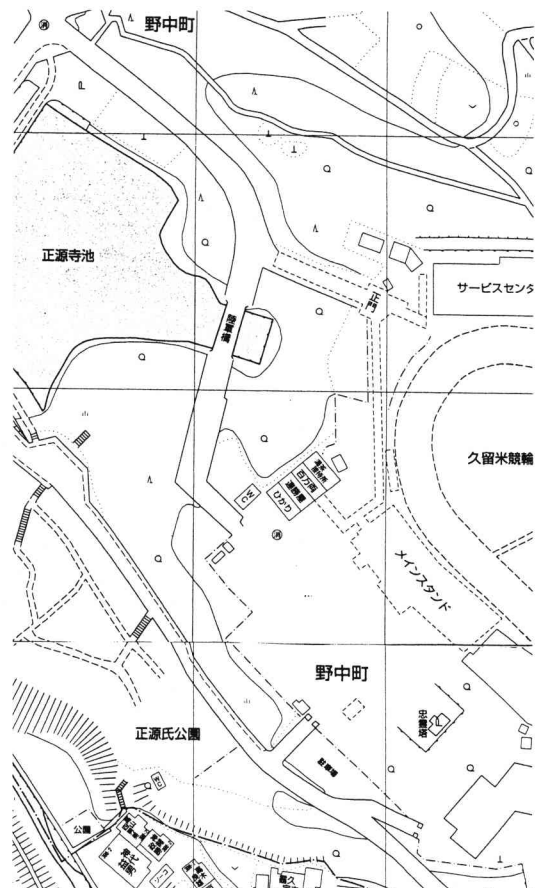
『福岡県戦没者遺族の五十年』1995年8月1日、福岡県遺族連合会刊

『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

「住宅地図」に忠霊塔の記載



70 久留米陸軍墓地
1999年8月17日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

71 佐賀陸軍墓地

佐賀市 旧金立村

敗戦直後 1560 坪

不明 確認できない

72 大村陸軍墓地

大村市三城町 三城跡

敗戦直後 2124 坪

国有地

祭祀

1962 年現在 団体主催で、年 2 回春秋に、維持管理も団体

2000 年現在 慰霊団体は長崎県奉賛会、慰霊祭は秋春に、管理も長崎県奉賛会

忠霊塔 1934 年建

長崎県の忠霊塔に

戦争事変戦没者合同碑

長崎県知事

個人墓

将校 1 基

下士 4 基

兵卒 9 基

1902 年から 1933 年ぐらいか

歩兵第 46 連隊の陸軍墓地

参考文献

『角川日本地名大辞典』長崎県、1987 年 7 月 8 日、角川書店刊

「住宅地図」に長崎県忠霊塔の記載



72 大村陸軍墓地 1999 年 8 月 21 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

73 佐世保 峰坂陸軍墓地

佐世保市峰坂町3番 峰坂児童公園

敗戦直後 371坪

遺骨は遺族に

現在は東山海軍墓地の中に移転

忠魂碑 1基

個人墓 3基

元の峰坂児童公園には移転を示す石柱のみ

佐世保重砲兵の陸軍墓地

参考文献

『ふるさと思い出写真集明治大正昭和 佐世保』1979年9月28日、国書刊行会刊



73 佐世保陸軍墓地 1999年8月21日撮影

74 長崎陸軍墓地

長崎市坂本町2丁目1番15号 県営墓地の内

陸軍墓地は元もとは長崎西高等学校の所にあった

1882年ごろ設置か

坂本墓地に1892年5月に移設

敗戦直後 342坪

国有地

1962年現在 維持管理は有志

祭祀

2000年現在 慰霊団体は長崎郷友会、慰霊祭は9月23日に、管理は長崎財務事務所

個人墓 11基

砲兵大尉 1911. 11. 2 死

歩兵1等卒 死

火工卒 1882. 6. 10 死

大工卒 1881. 4. 19 死

2等駆卒 1878. 11 死

2等駆卒 1878. 死

1等駆卒 1877. 1. 20 死

歩兵曹長 1884. 5. 12 死

砲兵軍曹 1884. 11. 18 死

下士候補生 1894. 7. 1 死

参考文献

「東宮御成婚記念 日本交通分県地図 長崎」



74 長崎陸軍墓地 2001年4月29日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

75 厳原陸軍墓地

下県郡厳原町厳原東里 遠見崎

敗戦直後 229 坪

国有地 維持管理は厳原町

祭祀

1962年現在 厳原町主催で、9月に

個人墓

特務曹長 1基

曹長 3基

兵卒 23基

以上と別に

下士兵卒忠死の碑とともに、日清戦争関係の個人墓が一角にまとまっている

63基か64基

参考文献

『角川日本地名大辞典』長崎県、1987年7月8日、角川書店刊



75 厳原陸軍墓地 2001年5月1日撮影

76 鶏知陸軍墓地

下県郡美津島町鶏知

敗戦直後 817 坪

国有地で美津島町が借受 維持管理は美津島町
祭祀

1962 年現在 美津島町主催で、10 月に
忠霊塔

同じ敷地内に 表忠碑あり

1937 年 3 月建 対馬要塞司令官
個人墓、合葬墓なし
参考文献

「住宅地図」に忠霊塔の記載



76 鶏知陸軍墓地 2001 年 5 月 1 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2000

77 熊本 小峰陸軍墓地

熊本市黒髪 4 丁目 10 番 市営墓地

敗戦直後 3577 坪

市有地 管理も熊本市

祭祀

2000 年現在 慰霊団体は熊本市遺族連合会、慰霊祭は 9 月に 合同で

戦後の忠霊塔 1955 年 3 月建

熊本県の全戦没者合葬墓碑

碑

済南事変忠死者之碑 1929 年 3 月建

満州事変戦没者合祀碑 1934 年 7 月 13 日建

その他戦後の碑

個人墓なし

第6師団の陸軍墓地

参考文献

『歩兵第十三連隊史』1931年7月

原田敬一「『万骨枯る』空間の形成」『仏教大学文学部論集』82号、1998年3月2日刊、所収

『英霊を仰ぐ熊本県民のこころ』1998年10月17日、

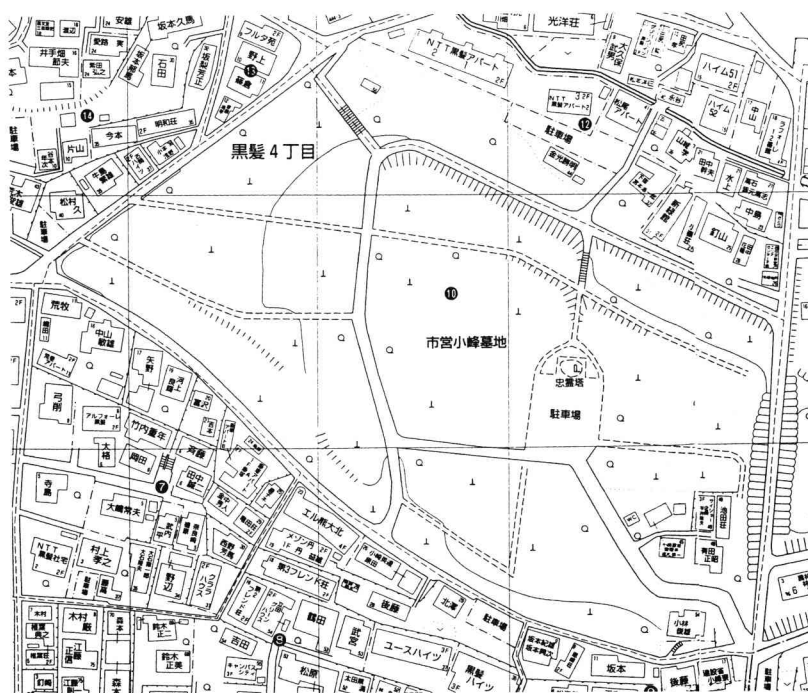
終戦五十年英霊顕彰事業熊本県実行委員会編、日本会議熊本刊

『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

「住宅地図」に市営小峰墓地・忠霊塔の記載



77 熊本 小峰陸軍墓地
1999年8月17日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

78 熊本 花岡山陸軍墓地

熊本市横手2丁目13番 花岡山官軍墓地

神風連の乱戦没者116人

敗戦直後 476坪

市有地 管理も熊本市

祭祀

2000年現在 慰霊団体は熊本市遺族連合会、慰霊祭は9月に 合同で

合葬墓

軍人軍属合葬之碑

個人墓あり

参考文献

原田敬一「『万骨枯る』空間の形成」『仏教大学文学部論集』82号、1998年3月2日刊、所収

『英霊を仰ぐ熊本県民のこころ』1998年10月17日、

終戦五十年英霊顕彰事業熊本県実行委員会編、日本会議熊本刊
「住宅地図」に官軍墓地の記載



78 熊本 花岡山陸軍墓地 1999年8月17日撮影

79 大分 志手ヶ丘陸軍墓地

大分市志手5組 桜ヶ丘聖地

1908年設置 歩兵第72連隊とともに

戦後 大蔵省管理

敗戦直後 2080坪

1955年大分県に払い下げ

1959年10月1日 県整備 桜ヶ丘聖地に

管理は大分県

祭祀

1962年現在 大分県主催で、8月に

2000年現在 慰霊団体は英霊にこたえる会、慰霊祭は8月6日に

最上段 シベリア記念堂

次の段の1 納骨塔 大東亜戦争 1953年3月31日建

大分連隊区 分骨4000人

特殊遺骨

大分県の全戦没者合葬墓碑

2 満州事変戦没者合祀碑 1934年8月13日建

個人墓

佐官 4基 シベリア出兵 ユフタ 1919年2月26日 戦死

次の段の1 個人墓

尉官 5基 シベリア出兵 ユフタなど 1919年 戦死

尉官 2基 満州事変

2 個人墓

特務曹長 5基 シベリア出兵 ユフタなど 1919年 戦死

次の段

下士 70基 ほとんど シベリア出兵 ユフタなど 1919年 戦死

通訳 1基

ドイツ人 2基

兵 2基 1909年と1911年

兵 207基 ほとんど シベリア出兵 ユフタなど 1919年 戦死

馬 7 基

次の段の 1 旧衛戍地埋葬者合祀之碑 1933 年 7 月 31 日建

明治三十七八年戦役 518 人

明治四十一年韓国事変 22 人

大正三～九年戦役 70 人

2 済南事変忠死者之碑 1929 年 3 月 20 日建

下士 3 人

兵 10 人

歩兵第 72 連隊と歩兵第 47 連隊の墓地

参考文献

『大分市誌』1937 年 5 月 17 日刊

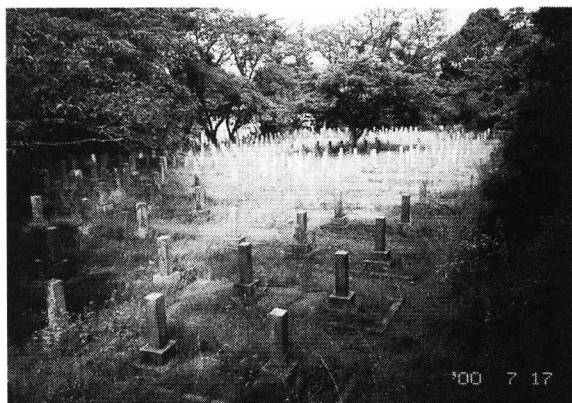
『大分市史』下巻, 1988 年 3 月 31 日刊

『大分県遺族会連合会 創立四〇周年記念誌』1989 年 8 月 15 日刊

『碑』1982 年 8 月 30 日, 平和祈念刊行会刊

「大分市新地図」1937 年 1 月 10 日, 大分市役所編・刊

「住宅地図」に桜ヶ丘聖地の記載



79 大分 志手ヶ丘陸軍墓地 2000 年 7 月 17 日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2002

80 都城 陸軍墓地

都城市都島町 3 都島公園

敗戦直後 2693 坪

国有地で都城市が借受 維持管理も都城市

祭祀

1962 年現在 団体主催で, 9 月に

2000 年現在 慰霊団体なし, 慰霊祭なし

納骨堂 1938 年建

日中戦争 4992 人

太平洋戦争 3718 人

戦後 685 人

碑

済南事変忠死者之碑 1929 年 3 月建

満州事変戦没者合祀碑 1934 年 7 月 13 日建

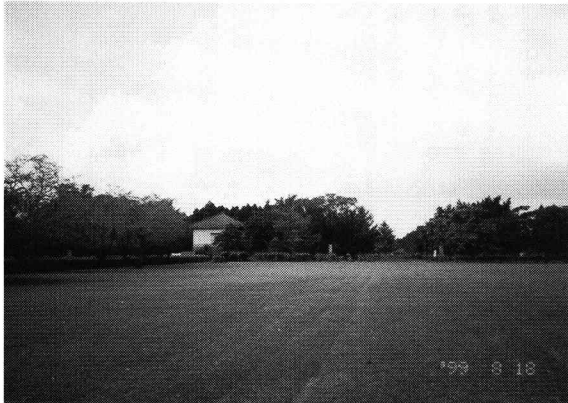
旧衛戍地埋葬者合祀碑 1933 年 7 月建

個人墓なし

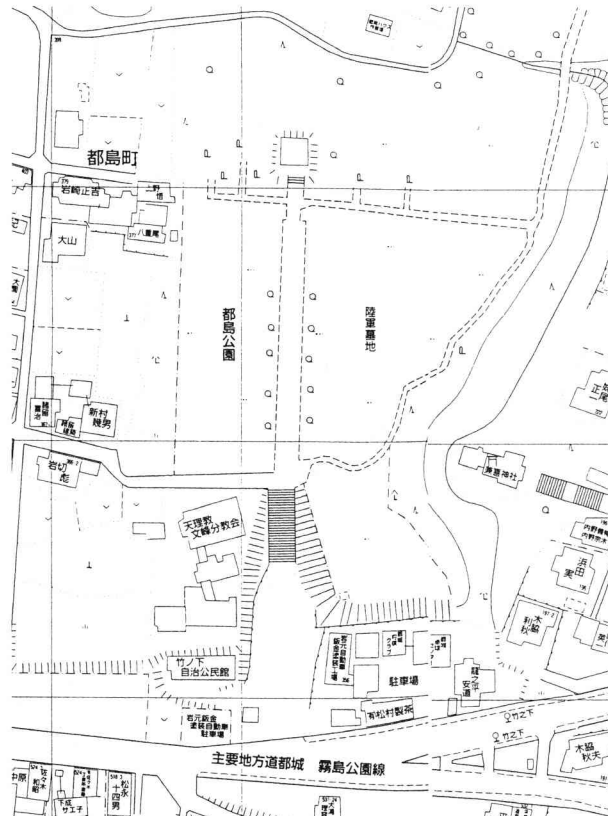
敷地 2629.90 m²

参考文献

『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊
「住宅地図」に都島公園・陸軍墓地の記載



80 都城陸軍墓地 1999年8月18日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

81 鹿児島 永吉陸軍墓地

鹿児島市永吉3丁目11番 永吉公園

敗戦直後 1051坪

1947年3月25日鹿児島市に無償返還、以後市が維持管理

国有地で鹿児島市が借受 管理は鹿児島市

祭祀

1962年現在 鹿児島市主催で、3月に

2000年現在 慰霊団体は戦没者墓地顕彰会、慰霊祭は3月と9月の最終日曜日

碑

済南事変忠死者之碑 1929年3月建 5人

満州事変戦没者合祀碑 1934年7月13日建 49人

個人墓

595基 (1962年現在調査)

591基 (『歩兵第四十五連隊史』)

兵卒 198 基
上等兵 296 基
下士 82 基
準士官 2 基
尉官 9 基
佐官 4 基

ほとんど日露戦争

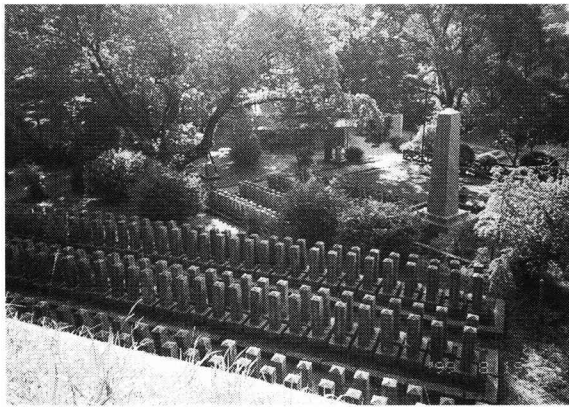
歩兵第 45 連隊の陸軍墓地

参考文献

『歩兵第四十五連隊史』1981 年 8 月 10 日, 鶴飼敏定著・刊

『角川日本地名大辞典』鹿児島県, 1983 年 3 月 8 日, 角川書店刊

「住宅地図」に鹿児島戦没者墓地の記載



81 鹿児島 永吉陸軍墓地 1999 年 8 月 19 日撮影



〔補足 1962 年の調査で出てくる千葉県内の陸軍墓地〕

82 柏陸軍墓地

柏市柏 531 番地 柏公園

『柏市史』近代編には堂の形の忠霊塔のみ建設され, 陸軍墓地はつくられなかったとある

現在は忠霊塔はなく, 1958 年 7 月 20 日建の忠霊の碑がある

国有地

管理 柏市

祭祀 柏市主催 年 1 回 (1962 年現在調査)

参考文献

『柏市史』近代編, 2000 年 3 月 31 日刊

「住宅地図」に柏公園, 忠霊の碑の記載

83 国府台陸軍墓地

市川市北国分 1 丁目 4 番

敗戦後, 農園化 現在は宅地に

国府台陸軍墓地改葬記念合葬碑が竺園寺 (市川市国分 5 丁目 15 番 2 号) にある

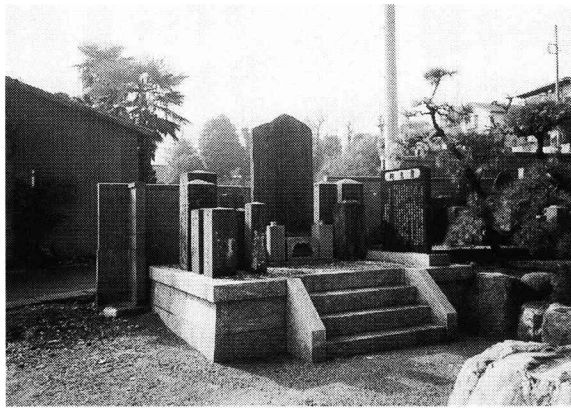
175 人あったのを竺園寺に改葬

1956 年建

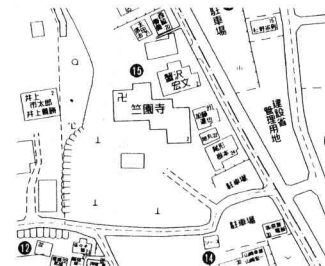
遺骨は竺園寺へ

寺の入口正面に、碑とともに1988年4月3日改葬
陸軍教導団関係個人墓 9基 1886～1887年と1903年死
騎兵第6旅団騎砲兵中隊戦死者之霊 1基
3人 伍長2人上等兵1人 1932年11月～12月戦死
参考文献

『市川市石造文化財資料集2 国分・北国分の石造物』1991年、市立市川歴史博物館編・刊
「大正時代の国分村の図」、市川博物館友の松岡博子氏、1995年作製



83 国府台陸軍墓地改葬記念碑 2002年2月6日撮影



© ZENRIN CO., LTD 1996

〔海軍墓地〕

84 函館海軍葬儀場

函館市船見町6番

1884年1月設置

埋葬数 28人 1963年調査

土地取得時 125坪

1947年8月より平和厚生会（北海道連合遺族会）に管理を移管

1951年3月在家日蓮宗浄風会函館支部に墓地用地として売却

旧海軍軍人の墓は以前のまま存在

碑 2基

己巳役海軍戦死碑

1869年の箱館戦争での新政府側の海軍戦死者 73名 名前あり

函館府在住隊

1869年5月11日戦死 9人

個人墓 3基

参考文献

『はこだて歴史散歩』1982年5月25日、北海道新聞社編・刊

『引揚げと援護三十年の歩み』1978年4月5日刊、厚生省援護局編

『新潟県終戦処理の記録』1972年3月31日、新潟県刊

「改正 函館港全図」1899年刊

「住宅地図」に己巳役海軍戦死碑の記載

85 白金海軍葬儀場

港区白金台1丁目2番

設置 1872年10月

埋葬数 595人 1963年調査

土地敗戦時 2695坪 番舎1棟

1948年1月東京都に管理を移管

1952年3月明治学院に教育用地として売却

同院は記念霊域として120坪の土地を区切り納骨堂を建てて遺骨を収納のうえ国に寄付

1954年7月東京都に改めて霊域の管理を委託

祭祀

1963年現在 東京都主催で春秋慰霊祭執行

記念堂

納骨堂

個人墓，合葬墓なし

参考文献

『明治学院九十年史』1967年11月3日，明治学院刊

『明治学院八十年史』1957年11月1日，明治学院刊

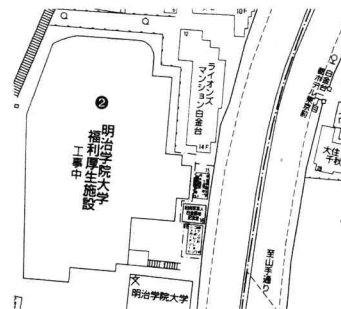
『引揚げと援護三十年の歩み』1978年4月5日刊，厚生省援護局編

『新潟県終戦処理の記録』1972年3月31日，新潟県刊

『碑』1982年8月30日，平和祈念刊行会刊

『東京都忠魂碑等建立調査集』1995年8月15日，海老根功編，靖国神社刊

『住宅地図』に旧海軍軍人白金墓地記念堂の記載



85 白金海軍葬儀場 1998年11月16日撮影

86 横須賀 馬門山海軍葬儀場

横須賀市根岸町1丁目27番1号

1982年1月 馬門山海軍埋葬地 設定

横須賀鎮守府が管理 敗戦まで

1928年 横須賀鎮守府海軍埋葬場規則
25000㎡

埋葬数 1588人 1963年調査

土地敗戦時 7420坪 番舎1棟（15坪）

1949年5月横須賀市に管理を移管

1951年3月横須賀市に市営墓地用として施設財産を無償譲渡

その後市は一部に墓地を造成し市民の墓地として使用

祭祀

1963年現在 横須賀市が4月頃に戦没者慰霊祭を行う前日に墓前祭執行

3段

下・中段 兵

中の方が古そう

上段

7基の碑と士官の墓

戦後拡張一般の墓も

碑

軍艦河内殉難者之碑	621人	1919年2月建
軍艦筑波殉難者之碑	152人	1919年4月建
特務艦関東殉難者之碑	68人	1925年4月建
北京籠城軍艦愛宕戦死者碑	5人	1901年5月建
上海事変戦死者之碑	59人	1933年1月建
第四艦隊遭難殉難者之碑	36人	1936年9月建
支那事変大東亜戦争戦没者忠霊塔	372人	1953年9月建

個人墓

279基

軍人以外の一般墓

305基

参考文献

『引揚げと援護三十年の歩み』1978年4月5日刊，厚生省援護局編

『新潟県終戦処理の記録』1972年3月31日，新潟県刊

『呉海軍墓地沿革史』1975年12月10日，呉海軍墓地保存協会刊

『碑』1982年8月30日，平和祈念刊行会刊

『神奈川県忠魂碑等建立調査集』1996年8月15日，海老根功編，靖国神社刊

『角川日本地名大辞典』神奈川県，1984年6月8日，角川書店刊

「住宅地図」に馬門山墓地の記載



86 横須賀 馬門山海軍葬儀場 1999年1月5日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2000

87 舞鶴 中舞鶴海軍葬儀場

舞鶴鎮守府埋葬地

舞鶴市余部下

1898年から買収開始

1899年8月23日竣工

舞鶴鎮守府葬儀場

敗戦直後 2574坪 旧陸海軍墓地調

敗戦時 850.9㎡ 2545.50坪 番舎1棟(9.58坪) 式場1棟(9坪)

埋葬数 417人 1963年調査

1946年7月20日舞鶴市へ管理移管

1951年11月舞鶴市に市共同墓地用として施設財産を無償譲渡

その後舞鶴市は墓の一部を改葬

祭祀

1963年現在 水交会舞鶴支部主催で4月頃に慰霊祭執行

納骨堂

万霊塔 1947年9月竣工 1949年4月6日建立 7人

碑

尼港殉職海軍将卒記念碑 1921年3月13日建 45人

軍艦新高殉職者之碑 1923年8月26日建 149人

特務鑑関東殉職者記念碑 1925年5月12日建 25人

新たに軍艦ごとなどの碑も建つ

個人墓 14基

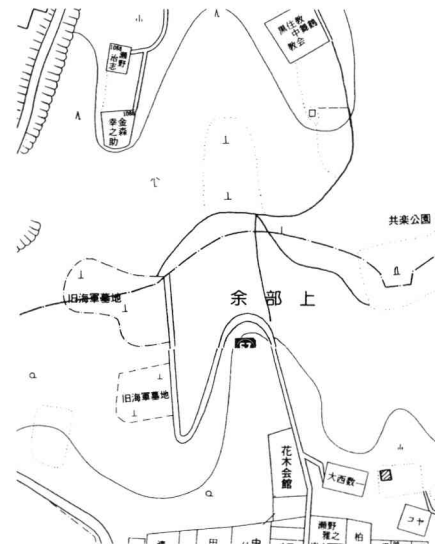
1904年から1943年

参考文献

- 舞鶴地方復員部「旧海軍墓地の沿革」1955年3月作成、
沿革・移管関係文書・舞鶴鎮守府法令・埋葬者名簿・殉職者名簿・合祀者名簿など収録
『舞鶴市史』通史編下 1982年7月10日刊
『舞鶴市史』現代編 1988年9月1日刊
『引揚げと援護三十年の歩み』1978年4月5日刊、厚生省援護局編
『新潟県終戦処理の記録』1972年3月31日、新潟県刊
『呉海軍墓地沿革史』1975年12月10日、呉海軍墓地保存協力会刊
『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊
『住宅地図』に旧海軍墓地の記載



87 舞鶴 中舞鶴海軍葬儀場 1999年4月26日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2000

88 呉 和庄町海軍葬儀場

呉市上長迫町7番 長迫公園

1890年 呉海軍鎮守府設置にともない 3月に墓地設置

土地買収して 8503坪 28000㎡

呉海軍鎮守府管理

秋季皇霊祭に慰霊祭

1945年7月空襲 9月水害 荒廃

埋葬数 694人 1963年調査

敗戦時土地 8570坪

1945年 廃止

戦災・暴風雨で被害

その後 呉復員局が復旧

1947年2月6日、呉市に管理を移管

一部開墾され耕地に

1957年7月海上自衛隊呉地方総監部にその保全を依頼

1960年6月一部の1222坪が文部省に寄宿舍用地として保管換え

1971 年 呉海軍墓地保存協力会結成

1988 年 7 月 呉海軍墓地保存会に

1971 年 3 月 呉市に無償貸与

1986 年 呉市に無償譲与

長迫公園に 29000㎡に拡張 呉市維持管理

祭祀など

1963 年現在 夏に自衛隊員と地元有志が清掃と簡素な追悼行事執行

慰霊碑

87 基(案内板) 上海満州事変 太平洋戦争も含む 多くは鑑ごと 13 万人

個人墓

163 基あったが、7 基遺族が持ち帰り 156 基に

英国水兵 1 基

参考文献

『呉海軍墓地沿革史』1975 年 12 月 10 日、呉海軍墓地保存協力会刊

沿革・移管関係文書・呉鎮守府法令・戦死者埋葬者名簿など収録

「案内図」1994 年 9 月、呉海軍墓地顕彰保存会、呉海軍海交会連盟、広島県海交会

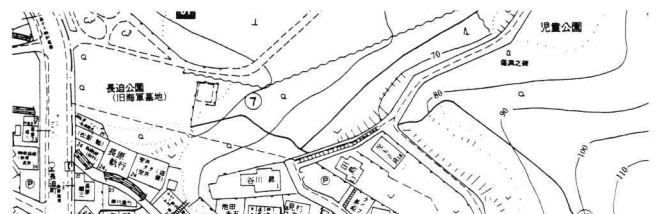
「呉海軍墓地の沿革」1989 年 9 月 23 日、呉海軍墓地保存会刊

『新潟県終戦処理の記録』1972 年 3 月 31 日、新潟県刊

『碑』1982 年 8 月 30 日、平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』広島県、1987 年 3 月 8 日、角川書店刊

「住宅地図」に長迫公園・旧海軍墓地の記載



© ZENRIN CO., LTD 2002

88 呉 和庄町海軍葬儀場 1997 年 11 月 16 日撮影

89 佐世保 福石海軍葬儀場

佐世保鎮守府埋葬地

東山海軍墓地

佐世保市東山町 180 番地 東公園

1891 年 4 月設置

1892 年 10 月 2 日埋葬開始

4 か所から移す 峰坂など 長崎稲佐海軍墓地からも

戦前 佐世保海軍鎮守府管理 国有地

敗戦直後 8763 坪 旧陸海軍墓地調

敗戦時土地 8846.64 坪 番舎 1 棟 (10.5 坪) 礼拝場 1 棟 (12 坪) 式場 1 棟 (8.75 坪) 8905 坪

埋葬数 1735人 1963年調査

1946年8月佐世保市に管理を移管

戦後荒廃

1951年10月佐世保市に公園用として施設財産を無償譲渡

1975年4月6日 東山海軍墓地保存協力会結成

祭祀など

1963年現在 佐世保市主催で、毎年5月に慰霊祭執行

合葬碑

戦前15基 戦後40基

上海事変戦死者之碑

個人墓 417基

含む陸軍3基 ドイツ水兵1基

陸軍墓地もこの中に移転

参考文献

志岐叡彦『佐世保東山海軍墓地墓碑誌』1988年8月30日、東山海軍墓地保存協力会刊

『引揚げと援護三十年の歩み』1978年4月5日刊、厚生省援護局編

『新潟県終戦処理の記録』1972年3月31日、新潟県刊

『呉海軍墓地沿革史』1975年12月10日、呉海軍墓地保存協力会刊

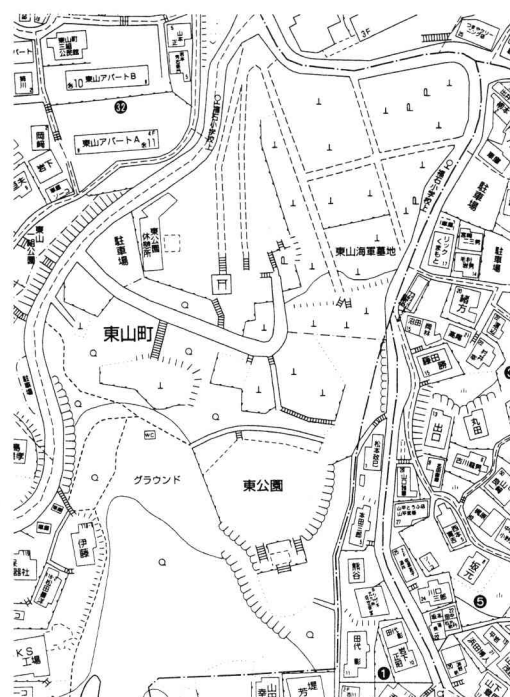
『碑』1982年8月30日、平和祈念刊行会刊

『角川日本地名大辞典』長崎県、1987年7月8日、角川書店刊

「住宅地図」に東山海軍墓地の記載



89 佐世保 福石海軍葬儀場 1999年8月21日撮影



© ZENRIN CO., LTD 2001

90 佐賀関海軍葬儀場

佐賀関町 関 須賀

1889 年 4 月設置

敗戦時土地 14 坪

埋葬数 7 人 1963 年調査

1952 年 6 月佐賀関町に管理を移管

1969 年 精錬所拡張のため移転

祭祀

1963 年現在 佐賀関町主催で、毎年お盆に慰霊祭執行

個人墓 7 基

西南戦争戦死 1877 年 5 基

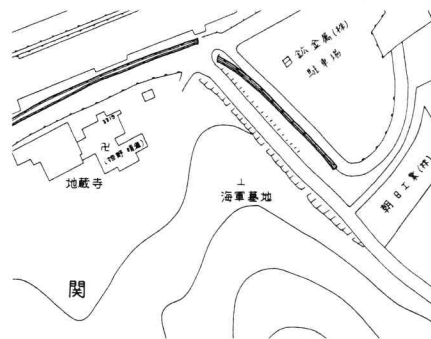
病死 1882 年 2 基

参考文献

『呉海軍墓地沿革史』1975 年 12 月 10 日、呉海軍墓地保存協力会刊

『新潟県終戦処理の記録』1972 年 3 月 31 日、新潟県刊

「住宅地図」に海軍墓地の記載



© ZENRIN CO., LTD 2001

90 佐賀関海軍葬儀場 2000 年 7 月 18 日撮影

〔補遺〕

91 沼田陸軍墓地

沼田市高橋場町 1995 番地 十王公園

沼田利南忠霊塔 名前は忠霊塔だが、実際は納骨堂

沼田陸軍墓地兼沼田町・利南村忠霊塔として

1943 年 3 月 15 日地鎮祭

1944 年 9 月 25 日竣工

10 月 20 日竣工式と納骨開眼大法要式

4621 坪

合祀数 739 人

管理 沼田市戦没者忠霊奉賛会沼田利南支部

祭日 5 月中旬

東部第 41 部隊 迫撃砲第 1 連隊の陸軍墓地

部隊は 1941 年 12 月着 1942 年 2 月入営式

参考文献

- 『利南村誌』1956年10月20日、利南村誌編纂委員会編刊
『沼田町史』1952年8月25日、沼田町史編纂委員会編、沼田町役場刊
『群馬県復員援護史』1974年3月30日、群馬県刊
『沼田市史』資料編3、1998年3月31日、沼田市史編さん委員会編、沼田市刊
『沼田市史』通史編3、2002年3月10日、沼田市史編さん委員会編、沼田市刊
『角川日本地名大辞典』群馬県、1988年7月8日、角川書店刊
「住宅地図」に霊殿の記載

92 相模原陸軍墓地

相模原市東大沼1丁目17番 慰霊塔公園
相模忠霊塔

1943年8月建立

1937年から陸軍施設が相次いで開設されたことに対応
軍が地元及び近隣住民の協力をえて建てた

1949年5月 土地・施設が国から相模原町に譲渡

1952年7月 相模原町慰霊塔に

相模原市管理

秋に相模原市主催で合同慰霊祭

参考文献

- 『神奈川県忠魂碑等建立調査集』1996年8月15日、海老根功編、靖国神社刊
『角川日本地名大辞典』神奈川県、1984年6月8日、角川書店刊
「住宅地図」に相模原慰霊塔の記載

93 大刀洗陸軍墓地

甘木市大字菩提寺379番地 甘木公園

1938年陸軍基地建設

1939年忠霊塔創建 1988年改修

管理 甘木市遺族連合会

西部第一〇〇部隊 第五航空教育隊管理の陸軍墓地

参考文献

- 『福岡県戦没者遺族の五十年』1995年8月1日、福岡県遺族連合会刊
「住宅地図」に忠霊塔の記載

94 那覇陸軍墓地

那覇市大道129

旧島尻郡真和志村安里

1886年、熊本から沖縄県へ派遣された分遣隊の死亡軍人30余人を葬った
最初は真和志村字与儀の東にあった

1909年沖縄在郷将校団が発起して寄付を募り、この地に移管

この時の由緒を書いた記念碑が建てられたが、今は不明

現在は陸軍基地慰霊塔だけがある 1951年8月9日建

参考文献

- 『真和志市誌』1956年2月20日、真和志市役所刊
大田昌秀『慰霊の塔』1985年6月23日、那覇出版社刊
旧真和志の「民俗地図」1978年12月、那覇市史編集室作成
『那覇の戦跡と基地』1988年 那覇市から基地をなくす住民の会編・刊
「那覇市旧跡・歴史的地名地図」1998年3月、那覇市文化局歴史資料室、作成
『角川日本地名大辞典』沖縄県、1986年7月8日、角川書店刊
「住宅地図」に拝所の記載

[補註]

「全国陸海軍墓地一覧」の原稿提出後、戦中作成と思われる「陸軍墓地一覧」(大阪市公文書「都市公園台帳・真田山公園墓地」の中に綴られている大阪地方世話部「陸軍墓地ニ関スル書類綴」所収)を見ることができた。これには、大津、八日市、戸坂山、初瀬ヶ原、千代松原、長崎、花岡山の陸軍墓地は載っていないが、沼田、柏、国府台、東京、雑司ヶ谷、相模原、高知、下関、小倉、大刀洗、那覇の日本国内陸軍墓地、さらに烏山、平壤、咸興、羅南、会寧、竜山、京城(太郎)の朝鮮にあつた陸軍墓地、台北、台中、台南、澎湖島、嘉義の台湾にあった陸軍墓地も載っている。なお『海軍制度沿革』によると、日本国内の海軍葬儀場以外に、旅順の三里橋海軍葬儀場と朝鮮の鎮海海軍墓地(元山・仁川・釜山の3個所の海軍墓地をまとめたもの)があった。

そこで、戦中と思われる「陸軍墓地一覧」には出ているが、敗戦後の史料に出ていない日本国内の陸軍墓地のうち、何を指すかわからないものや陸軍墓地に関連して陸軍墓地外に建てられた忠霊塔を指すと思われるものを除き、補足で取り上げた柏、国府台に加えて、補遺として沼田、相模原、大刀洗、那覇の各陸軍墓地について、現状などの調査結果を記載した。また戦中と思われる「陸軍墓地一覧」の翻刻を付表として載せた。

付表 戦中と思われる「陸軍墓地一覧」

管轄軍師団	墓地名	所在地	管理担任部隊
北部軍司令部 札幌市	札幌陸軍墓地	北海道札幌郡豊平町	市月寒
	函館柏ヶ崎々	北海道函館市湯ノ川町	
	函館台町々	北海道函館市台町	
旭川師団	旭川陸軍墓地	旭川市	
	樺太希望者ハ旭川墓地ヲ利用ノ事		
弘前師団	弘前陸軍墓地	弘前市	北部第十六部隊
	秋田々	秋田市	々 十七部隊
	山形々	山形市	々 十八部隊
東部軍司令部 東京都	国府台陸軍墓地	千葉県市川市国分	東部第七十一部隊
	習志野々	千葉県千葉郡二宮町字習志野	東部軍教育隊
	横須賀々	神奈川県横須賀市平作町	東京湾要塞司令部
	沼田々	群馬県沼田町	東部第四一部隊
	相模原々		
	村松々	新潟県中蒲原郡村松村	村松陸軍病院
	青森々	青森市	
	盛岡々	盛岡市上田	
東京師団	東京陸軍墓地	東京都	
	雑司ヶ谷々	東京都雑司ヶ谷	
	下志津々	千葉県印旛郡千代田村	
	千葉々	千葉県千葉市中島	
	音羽々	東京都小石川区大塚坂下町	忠霊塔建設計画中
	甲府々	山梨県甲府市岩窪町	々
	佐倉々	千葉県印旛郡佐倉町	
	柏々	千葉県東葛飾郡富勢村	
仙台師団	仙台陸軍墓地	仙台市原町	
	若松々	福島県北会津郡	
	新発田々	新潟県北蒲原郡	
	高田々	新潟県中頸城郡	
宇都宮師団	水戸々	茨城県東茨城郡渡里村	水戸連隊区
	宇都宮々	栃木県河内郡城山村	宇都宮々
	高崎々	高崎市若松町	前橋々
金沢師団	金沢陸軍墓地	石川県金沢市	金沢師団司令部
	富山々	富山県富山市	東部第四八部隊
	松本々	長野県松本市	東部第五十部隊
中部軍司令部	鯖江陸軍墓地	福井県今立郡神明村	中部第八十部隊
	福知山々	京都府福知山市	中部軍教育隊
	舞鶴々	京都府舞鶴市	中部第七一部隊
	深山々	和歌山県海草郡加太町字深山	中部第七一部隊
名古屋師団	名古屋陸軍墓地	名古屋市	中部第二部隊
	岐阜々	岐阜市	中部第四部隊
	豊橋々	豊橋市	中部第十一部隊

管轄軍師団	墓地名	所在地	管理担任部隊
名古屋師団	浜松陸軍墓地	浜松市	名古屋師団司令部
	静岡〃	静岡市	中部第三部隊
	三島〃	三島郡	中部第七部隊
京都師団	京都陸軍墓地	京都市	京都師団司令部
	津〃	三重県津市	中部第三八部隊
	敦賀〃	福井県敦賀市	中部第三六部隊
大阪師団	奈良陸軍墓地	奈良市	奈良連隊区司令部
	真田山〃	大阪市	中部第二十二、二十三部隊
	和歌山〃	和歌山市	中部第二四部隊
	信太山〃	泉北郡福泉町	中部第二七部隊
	高槻〃	大阪府高槻市	中部第二九部隊
	篠山〃	兵庫県多紀郡城北村	中部一一〇部隊
姫路師団	姫路陸軍墓地	兵庫県姫路市山形新田	姫路師団司令部
	岡山〃	岡山県御津郡横井村字中原字新田ノ上	中部第四八部隊
	鳥取〃	鳥取県岩美郡宇倍野村大字町屋村	中部第四七部隊
西部軍司令部 福岡市	御幸村陸軍墓地	松山市御幸町	
	千堂〃	小倉市	
	高坊〃	〃	
	部府前〃	下関市	西部第七四部隊
	巖原〃	長崎県巖原町	
	鶏知〃	〃 下県郡鶏知町	対馬要塞司令部
	佐世保〃	佐世保市	西部第七五部隊
	小倉〃	小倉市	西部第七三部隊
	下関〃	下関市	西部第七四部隊
広島師団	比治山陸軍墓地	広島市	
	山崎（山口）〃	山口市	
	浜田〃	浜田市	
	松江〃	松江市西津田	
	福山〃	福山市草戸町	
善通寺師団	丸亀陸軍墓地	香川県綾歌郡土器村	
	善通寺〃	香川県仲多度郡善通寺町	
	徳島〃	徳島市蔵本町	
	高知〃		
	朝倉村〃	高知県土佐郡朝倉村	
	松山〃		
熊本師団	熊本陸軍墓地	熊本市	熊本師団司令部
	鹿児島〃	鹿児島市	西部第十八部隊
	都城〃	都城市	西部第十七部隊
	大分〃	大分市	大分連隊区司令部
	那覇〃	沖縄県島尻郡真和志村安里	
久留米師団	久留米陸軍墓地	福岡県久留米市	久留米師団司令部
	福岡〃	福岡県福岡市	西部第四六部隊

管轄軍師団	墓地名	所在地	管理担任部隊
久留米師団	大村陸軍墓地	長崎県大村市	西部第四七部隊
	佐賀々	佐賀市	
	大刀洗	福岡県	西部第一〇〇部隊
朝鮮軍司令部	烏山陸軍墓地	烏山府月影淵洞	朝鮮第七二部隊
平壤師団	平壤陸軍墓地	平安南道平壤府	平壤師団司令部
	咸興々	咸鏡南道咸興府駟馬町	朝鮮第四三部隊
羅南師団	羅南陸軍墓地	羅南邑1	
	咸興々	咸興府	朝鮮第四三部隊
	会寧々	会寧邑2	12ハ羅南師団ニテ管理ス
京城師団	竜山陸軍墓地	京城府竜山区梨恭院町	京城師団経理部
	京城(太郎)	慶尚南道達城郡寿城面	朝鮮第二四部隊
台湾軍司令部	台北陸軍墓地	台北市円山町	
	台中々	台中市旭町	
	台南々	台南市同郷子寮	
	澎湖島々	澎湖島庁文漁	
	嘉義々	嘉義市山子頂	

全国陸海軍墓地一覽地図

	地 図 名	発 行 日	ページ	記 載 内 容
1	「ゼンリン住宅地図 2001」 旭川市北地区	2001年3月発行	135	北海道戦没者慰霊堂
2	「ゼンリン住宅地図 2002」 札幌市豊平区	2001年9月発行	32	月寒忠霊霊塔
4	「ゼンリン住宅地図 2002」 函館市	2001年9月発行	12	旧陸軍墓地
5	「ゼンリン住宅地図 2001」 弘前市	2000年12月発行	79	仏舍利塔
6	「ゼンリン住宅地図 2001」 青森市東部	2001年7月発行	132	幸畑陸軍墓地
7	「ゼンリン住宅地図 2002」 盛岡市南部	2001年11月発行	146	岩手護国神社
8	「ゼンリン住宅地図 2002」 仙台市青葉区	2001年11月発行	55	常磐台霊園
10	「ゼンリン住宅地図 2002」 山形市南部	2001年8月発行	189	千歳山霊苑
11	「ゼンリン住宅地図 2001」 会津若松市	2001年6月発行	74	小田山忠霊堂
12	「ゼンリン住宅地図 '94」 水戸市西部	1994年3月発行	40,53	水戸市堀町公園墓地
13	「ゼンリン住宅地図 2001」 宇都宮市北部	2001年7月発行	163	栃木県護国神社
14	「ゼンリン住宅地図 2002」 高崎市	2001年8月発行	124	竜広寺
15	「ゼンリン住宅地図 '97」 千葉市中央区	1996年12月発行	6	忠霊塔
16	「ゼンリン住宅地図 '95」 船橋市東部2	1995年3月発行	27	船橋市習志野霊園
17	「ゼンリン住宅地図 '95」 佐倉市東部	1995年7月発行	18	佐倉霊園
18	「ゼンリン住宅地図 '92」 四街道市	1991年12月発行	58	(墓地)
20	「ゼンリン住宅地図 2000」 横須賀市北部	2000年6月発行	75	平作旧陸軍墓地
21	「ゼンリン住宅地図 2002」 上越市	2001年11月発行	292	高田忠霊塔
22	「ゼンリン住宅地図 2002」 新発田市	2002年1月発行	71,72	西公園 納骨堂
23	「ゼンリン住宅地図 2001」 村松町	2001年3月発行	14	村松公園 忠霊塔
24	「ゼンリン住宅地図 2002」 富山市	2001年7月発行	251	長岡墓地 忠霊塔
25	「ゼンリン住宅地図 2001」 金沢市南部	2001年1月発行	111	石川県戦没者墓地
26	「ゼンリン住宅地図 2002」 鯖江市	2001年12月発行	100	嶺北忠霊場 忠霊塔
27	「ゼンリン住宅地図 2001」 敦賀市	2001年1月発行	49	忠霊塔
28	「ゼンリン住宅地図 2001」 甲府市	2000年12月発行	33	戦没者納骨堂

	地 図 名	発 行 日	ページ	記 載 内 容
29	「ゼンリン住宅地図 2002」 松本市	2001 年 11 月発行	20	松本市美須々公園 納骨堂
30	「ゼンリン住宅地図 2001」 各務原市	2001 年 7 月発行	6	軍人墓地
31	「ゼンリン住宅地図 2002」 浜松市南部	2001 年 11 月発行	29	住吉公園
32	「ゼンリン住宅地図 2001」 静岡市北部	2001 年 8 月発行	34	旧静岡陸軍墓地公園
35	「ゼンリン住宅地図 2001」 豊橋市	2001 年 1 月発行	71	陸軍墓地
36	「ゼンリン住宅地図 2001」 久居市	2001 年 6 月発行	69	陸軍墓地
37	「ゼンリン住宅地図 2000」 大津市中心部	2000 年 2 月発行	8	旧大津陸軍墓地
39	「ゼンリン住宅地図 1999」 京都市伏見区	1999 年 5 月発行	13, 14	京都市深津墓園
40	「ゼンリン住宅地図 2000」 福知山市	2000 年 1 月発行	37	平和墓地
44	「ゼンリン住宅地図 2001」 和泉市	2001 年 4 月発行	38	黒島山公園 忠霊塔
45	「ゼンリン住宅地図 2000」 篠山市	2000 年 3 月発行	64	遺芳殿
46	「ゼンリン住宅地図 2001」 姫路市中心部	2001 年 1 月発行	104	姫路市名古山霊苑 陸軍墓地
47	「ゼンリン住宅地図 2002」 奈良市東部	2001 年 9 月発行	88	旧陸軍墓地
48	「ゼンリン住宅地図 2002」 和歌山市南部	2001 年 8 月発行	80	忠霊塔
50	「ゼンリン住宅地図 2002」 岩美郡岩美町・国府町・福部村	2002 年 1 月発行	114	陸軍墓地
51	「ゼンリン住宅地図 2001」 浜田市	2001 年 9 月発行	53	長沢公園
52	「ゼンリン住宅地図 2001」 松江市橋南地区	2001 年 7 月発行	22, 34	緑山公園
53	「ゼンリン住宅地図 2002」 岡山市 NO. 4	2001 年 8 月発行	102	岡山陸軍墓地
54	「ゼンリン住宅地図 2000」 広島市南区	2000 年 3 月発行	39	比治山陸軍墓地
57	「ゼンリン住宅地図 2001」 山口市北部	2001 年 6 月発行	39	旧陸軍墓地
59	「ゼンリン住宅地図 2002」 下関市 NO. 1	2001 年 8 月発行	44	戦場ヶ原公園 忠霊塔
60	「ゼンリン住宅地図 2002」 徳島市	2001 年 9 月発行	105	西部公園 忠霊塔
61	「ゼンリン住宅地図 2002」 丸亀市	2001 年 10 月発行	37, 38	陸軍墓地
62	「ゼンリン住宅地図 2002」 善通寺市	2001 年 9 月発行	68	陸軍墓地
63	「ゼンリン住宅地図 2002」 松山市	2001 年 7 月発行	284, 285	丸山墓地
64	「ゼンリン住宅地図 2002」 松山市	2001 年 7 月発行	6	ロシア人墓地
65	「ゼンリン住宅地図 2002」 高知市（縮刷版）	2001 年 9 月発行	11, 12	旧朝倉陸軍墓地 忠霊塔
68	「ゼンリン住宅地図 2002」 福岡市中央区	2001 年 11 月発行	45, 46	谷公園 陸軍墓地
70	「ゼンリン住宅地図 2002」 久留米市東部	2001 年 10 月発行	115, 123	忠霊塔
72	「ゼンリン住宅地図 2002」 大村市	2001 年 12 月発行	124, 125, 148, 149	長崎県忠霊塔
74	「ゼンリン住宅地図 2002」 長崎県北部	2001 年 9 月発行	170	（墓地）
76	「ゼンリン住宅地図 2000」 下県郡美津島町・豊玉町	2000 年 2 月発行	40	忠霊塔
77	「ゼンリン住宅地図 2002」 熊本市西部	2001 年 9 月発行	130	市営小峰墓地 忠霊塔
78	「ゼンリン住宅地図 2002」 熊本市西部	2001 年 9 月発行	172	官軍墓地
79	「ゼンリン住宅地図 2002」 大分市西部	2001 年 11 月発行	50, 61	桜ヶ丘聖地
80	「ゼンリン住宅地図 2001」 都城市北部	2001 年 3 月発行	127	都島公園 陸軍墓地
81	「ゼンリン住宅地図 2002」 鹿児島市北部	2001 年 9 月発行	170	鹿児島戦没者墓地
83	「ゼンリン住宅地図 1996」 市川市北部	1996 年 9 月発行	49	竺園寺
85	「ゼンリン住宅地図 2001」 港区	2001 年 4 月発行	53	旧海軍軍人白金墓地記念堂
86	「ゼンリン住宅地図 2000」 横須賀市北部	2000 年 6 月発行	93	馬門山墓地
87	「ゼンリン住宅地図 2000」 舞鶴市東部	2000 年 9 月発行	57, 63	旧海軍墓地
88	「ゼンリン住宅地図 2002」 呉市	2001 年 10 月発行	87	長迫公園 旧海軍墓地
89	「ゼンリン住宅地図 2001」 佐世保市南部	2001 年 6 月発行	206	東山海軍墓地
90	「ゼンリン住宅地図 2001」 佐賀関町	2001 年 9 月発行	23	海軍墓地

（立命館大学国際平和ミュージアム、国立歴史民俗博物館共同研究員）

（2002 年 5 月 10 日受理，2002 年 7 月 2 日審査終了）